



社会的養護経験者185人の 生活と声アンケート

2022年3月
公益財団法人あすのば



子どもの貧困対策や子ども・若者支援との連携、包括的な伴走の模索へ向けて

調査担当・村尾政樹

2020年度の虐待相談対応件数は20万5,029件で、過去最多を更新しました。一方、国の福祉行政報告例によると、一時保護につながった件数は4万8,784件（うち虐待は2万7,383件）。そこから、施設や里親につながった件数が9,130件（同5,042件）だったことから、多くは在宅・帰宅することになっていることが分かります（第15表・16表）。また、退所した子ども・若者の約40%が家庭復帰しているデータもあります（第13表）。

あすのばでは、住民税非課税・生活保護世帯とともに児童養護施設や里親など社会的養護のもとから退所する子ども・若者にも給付金を届けてきました。2020年度までに延べ1,179人にお届けし、親や家族を頼ることのできない後ろ盾のなさはさることながら、家庭復帰する人も経済的な困難性や家族の世話を担うような「円満」と言えない実情も垣間見えてきました。「延べ」人数としたのも、家庭に戻った後に再度、施設・里親のもとで暮らすことになり2回給付を行った人がいたからです。

つまり、社会的養護を経験する“前”も“後”も支援が必要とされる中、子どもの貧困対策や子ども・若者支援領域からの連携や、包括的に伴走できるかが大きな課題となりつつあります。

そこで、まずは実際に給付金を届けた人たちが現在どのような生活を送っているのだろう、声や想いを聴いて今後の事業や対策の改善・充実につなげたい。そのような想いから、あすのばでは初めて給付金を届けた社会的養護経験者へアンケートをお送りしました。対象は高校～大学生世代の本人票1,106人、および家庭復帰した小学～高校生世代の保護者票164人で、退所後の住所が分からない人には施設・里親に転送ご協力をお願いをしました。

今回のアンケートに際し、給付金を届けてから一番長くて5年程度でも本人票の31.1%（1,106人中344人）、保護者票の23.0%（164人中37人）は現住所不明などで送付できませんでした。まずはつながり続けることの難しさや大切さについて考えさせられる一幕でした。本人の不義理などでは決してなく、それだけ置かれる環境が安定しづらいことの裏返しだと感じています。また、その中でも4人がすでにお亡くなりになっており、とても胸が痛みました。

施設・里親での生活に関する質問（16ページ～）では、一時保護につながった後に家庭に戻り結果的に社会的養護へとつながったとみられる人、家庭復帰後に再度、施設・里親につながったとみられる人もいました。およそ半数が最後に生活していた施設・里親の市町村と異なる市町村に現在住んでいることも含め、あすのばのような地域や社会全体で活動する団体・支援者がいかにつながり、連携や包括的な伴走の在り方も考えさせられる結果でした。また、中学卒業を機に家庭復帰した人は後の高校卒業や大学進学、就職の際に社会的養護を経験した人だけ社会的養護の枠組みから外れてその支援が受けられなくなることに改めて気づかされました。今後は社会的養護を経験する“前・後”という支援枠組み自体から、問い直すことも必要かもしれません。

家庭復帰をした保護者24人からも貴重な生活の状況や声をお届けいただきました。聴き取りは残念ながら新型コロナ感染拡大による影響で実施できませんでしたが、深く御礼申し上げます。

「社会的養護経験者 185 人の生活と声アンケート」の概要

(1) 対象者について

このアンケートは、2015～2020 年度「あすのば入学・新生活応援給付金」および 2020 年度「あすのば入学・新生活応援給付金（臨時給付）」を届けた、児童養護施設や里親など社会的養護を経験した子ども・若者本人（今年度 16 歳～24 歳）と家庭復帰した人の保護者（今年度子どもが小学生～18 歳の世帯）を対象に実施しました。

(2) 対象者の人数

本人票 1,106 人、保護者票 161 人（世帯） 合計 1,267 人

(3) アンケートの方法

- ・本人票：インターネット上フォームの回答によるオンラインアンケート
- ・保護者票：印刷された調査票の回答による郵送アンケート

なお、給付金決定時に施設退所・里親委託解除後の住所を把握した人（本人票 468 人・保護者票 117 人）には直接郵送でアンケート協力依頼文を送付し、あすのばで住所の分からない人（本人票 638 人・保護者票 44 人）には施設・里親に転送の協力を依頼しました。

(4) アンケートの期間

2021 年 9 月 27 日（月）～10 月 29 日（金）※10 月 15 日（金）までの締め切りを延長

(5) 有効配布数・有効回答数など

このアンケートでは直接郵送と施設・里親転送後に不達戻りのない票数を有効配布数として、その数と有効回答数は以下の通りです。

【表】対象者数・有効配布数など

項目	対象者数	有効配布数	有効回答数*	回答率（配布）	回答率（対象）
本人票	1,106	762	161	21.1%	14.6%
保護者票	161	124	24	19.4%	14.9%

*本人票で該当しない世代の保護者、保護者票で職員・里親からの回答は無効としました

なお、お届けできなかった本人票 344 人・保護者票 37 人について内訳は、以下の通りです。「その他・転送不可」には施設・里親から転送可否の回答がなかった数も含まれています。

【表】お届けできなかった人数・理由の内訳（）内は不達における割合

項目	不達数	不達率	現住所不明・連絡がつかない	その他・転送不可
本人票	344	31.1%	217 (63.1%)	127 (36.9%)
保護者票	37	23.0%	15 (40.5%)	22 (59.5%)

【表】「その他・転送不可」理由内訳（本人票 127 人・保護者票 22 人の合計 149 件）

項目	代表的な記載例・理由	件数（割合）
施設・里親からの回答なし	-----	113（75.8%）
本人・家族の意向	<ul style="list-style-type: none"> ・家族の都合のため ・本人がアンケートはなしでお願いしたいとのこと ・連絡は取れるのですが、現時点では本人が住所は伝えたくないと話しているため 	9（6.0%）
施設・里親の意向	<ul style="list-style-type: none"> ・本人は答えることは難しいです ・退職をし居住地が定まっていないため ・本人に確認し転送しない了承をもらった 	4（2.7%）
措置延長・他の施設で生活中	<ul style="list-style-type: none"> ・シェルター入居中のため ・母子生活支援施設で生活 ・ファミリーホームで生活 	7（4.7%）
本人の死亡	<ul style="list-style-type: none"> ・亡くなりました ・本人が昨年亡くなったため 	6*（4.0%）
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・現在勾留中なため ・施設との関係不和 ・住所間違いなこと確認し転送したが届かなかった ・あすのばから手紙が届いたあと転送したか不明 	4（2.7%）
理由の記載なし	-----	6（4.0%）

*「本人の死亡」6件のうち2件は現在高校生世代の保護者票で、実数としては4人がお亡くなりになってアンケートを届けられませんでした。

(6) アンケートの項目

【本人票】

<p><回答者について></p> <ul style="list-style-type: none"> ・回答者（本人か代理人か） ・給付金を受け取った時期 ・年齢、性別、現在住んでいる都道府県と市区町村 ・最後に生活していた施設・里親の種類、都道府県と市区町村 <p><給付金について></p> <ul style="list-style-type: none"> ・どのくらいお役に立てたか、金銭面以外の意義、使い道 ・給付金を利用したとき必要だったお金の金額、あすのば以外の給付金の利用有無 ・申し込みをした人、給付金を知った時期

<仕事・学校について>

- ・退所した直後の進路、現在の仕事や学校
- ・今までに仕事、学校を辞めた経験

<施設・里親での生活について>

- ・過ごした期間、最後に生活していた施設・里親以外での生活、生活の感想
- ・この一年間の職員・里親との連絡頻度（対面・電話・メール・SNS など）
- ・連絡頻度の新型コロナウイルス感染拡大による影響

<現在の生活について>

- ・施設等を退所した直後と現在の住まい、同居相手
- ・家族の中に本人がお世話をしている人

<支援について>

- ・あすのばの給付金と、国民全員に配布された給付金（10万円）以外に利用した支援
- ・支援の利用方法（オンライン・オンライン以外）
- ・どのような支援・制度があると助かるか、給付金で改善してほしいことの自由記述

【保護者票】

<子どもと回答者（保護者）について>

- ・給付金を受け取った子どもの年齢、家庭復帰した時期、続き柄
- ・保護者の年齢、現在住んでいる都道府県と市区町村

<給付金について>

- ・どのくらいお役に立てたか、金銭面以外の意義、使い道
- ・給付金を知った時期

<家庭の状況について>

- ・住民税非課税世帯、生活保護世帯、ひとり親世帯など現在の家庭の状況
- ・子どもと家族の人数、父母の仕事の状況、受け取っている手当、家賃・ローン

<施設・里親とのつながり、支援について>

- ・子どもが過ごしていた施設・里親の種類、都道府県と市区町村
- ・この一年間の職員・里親との連絡頻度（対面・電話・メール・SNS など）
- ・連絡頻度の新型コロナウイルス感染拡大による影響
- ・あすのばの給付金と、国民全員に配布された給付金（10万円）以外に利用した支援
- ・支援の利用方法（オンライン・オンライン以外）
- ・どのような支援・制度があると助かるか、給付金で改善してほしいことの自由記述

(7) 留意点

- ・結果は有効回答数の本人票 161 人、保護者票 24 人の合計 185 人に基づき「社会的養護経験者 185 人の生活と声アンケート」として報告書にまとめました。
- ・給付金の選考は、進路や退所後の住まいなど総合的に必要性の高い人から採用しています。

「社会的養護経験者 185 人の生活と声アンケート」結果（本人票・速報値分）

（1）回答者について

① 回答者（本人か代理人か）

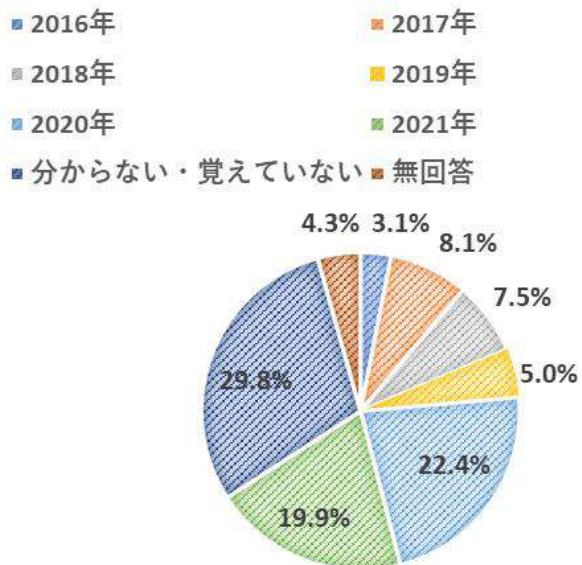
回答者について（n=161）		割合
給付金を受け取った本人	152	94.4%
代理人	9	5.6%
合計	161	100.0%

「給付金を受け取った本人」が 152 人（94.4%）、
「代理人」が 9 人（5.6%）でした。

本人と代理人の関係内訳は職員・里親が 4 人、
保護者・家族が 3 人、後見人・他 2 人でした。

② あすのばの給付金を受け取った時期（施設・里親を退所した年）

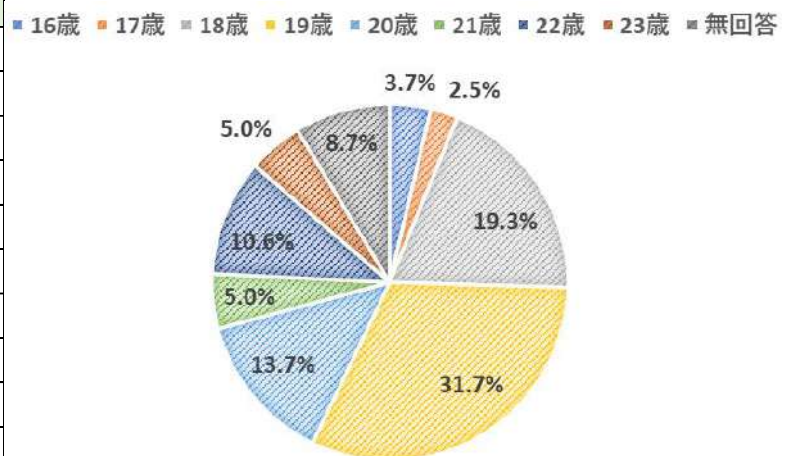
給付金を受け取った時期（n=161）		割合
2016年	5	3.1%
2017年	13	8.1%
2018年	12	7.5%
2019年	8	5.0%
2020年	36	22.4%
2021年	32	19.9%
分からない・覚えていない	48	29.8%
無回答	7	4.3%
合計	161	100.0%



「あすのばの給付金を受け取った時期」は、給付金の要件から多くは施設・里親を退所した年でもあります。分からない・覚えていない（29.8%）を除き、多かった回答・退所した年は 2020 年（22.4%）と 2021 年（19.9%）でした。

③ 年齢

今年度迎える（迎えた）年齢（n=161）		割合
16歳	6	3.7%
17歳	4	2.5%
18歳	31	19.3%
19歳	51	31.7%
20歳	22	13.7%
21歳	8	5.0%
22歳	17	10.6%
23歳	8	5.0%
無回答	14	8.7%
合計	161	100.0%



19 歳（31.7%）が一番多く、18 歳（19.3%）と合わせて回答者の約半数が 18 歳・19 歳でした。

④ 性別

性別 (n=161)		割合
女性	77	47.8%
男性	76	47.2%
その他	1	0.6%
無回答	7	4.3%
合計	161	100.0%

女性 (47.8%)、男性 (47.2%) と回答者の性別に偏りはありませんでした。

⑤ 現在住んでいる都道府県

現在住んでいる都道府県 (n=161)		割合	現在住んでいる都道府県 (n=161)		割合
北海道	4	2.5%	滋賀県	3	1.9%
青森県	2	1.2%	京都府	5	3.1%
岩手県	4	2.5%	大阪府	6	3.7%
宮城県	1	0.6%	兵庫県	6	3.7%
秋田県	0	0.0%	奈良県	1	0.6%
山形県	1	0.6%	和歌山県	1	0.6%
福島県	0	0.0%	鳥取県	1	0.6%
茨城県	1	0.6%	島根県	1	0.6%
栃木県	2	1.2%	岡山県	3	1.9%
群馬県	1	0.6%	広島県	1	0.6%
埼玉県	4	2.5%	山口県	5	3.1%
千葉県	6	3.7%	徳島県	1	0.6%
東京都	23	14.3%	香川県	3	1.9%
神奈川県	9	5.6%	愛媛県	2	1.2%
新潟県	1	0.6%	高知県	1	0.6%
富山県	0	0.0%	福岡県	10	6.2%
石川県	2	1.2%	佐賀県	1	0.6%
福井県	2	1.2%	長崎県	2	1.2%
山梨県	0	0.0%	熊本県	3	1.9%
長野県	4	2.5%	大分県	2	1.2%
岐阜県	7	4.3%	宮崎県	1	0.6%
静岡県	1	0.6%	鹿児島県	3	1.9%
愛知県	14	8.7%	沖縄県	4	2.5%
三重県	4	2.5%	無回答	2	1.2%
合計			161	100.0%	

秋田、福島、富山、山梨を除く 43 都道府県から回答がありました。現在住んでいる都道府県で最も多かったのは東京 (14.3%) で、次に多かったのは愛知 (8.7%)、福岡 (6.2%) でした。なお、給付金は当時お住まいの施設・里親住所において富山を除く 46 都道府県にお届けしています。

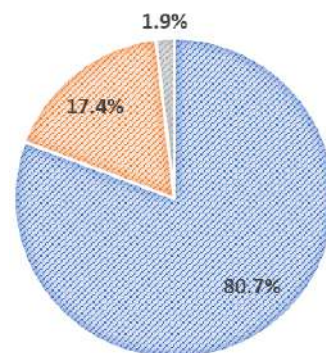
⑥ 最後に生活していた施設・里親の都道府県

施設・里親の都道府県 (n=161)		割合	施設・里親の都道府県 (n=161)		割合
北海道	5	3.1%	滋賀県	3	1.9%
青森県	2	1.2%	京都府	10	6.2%
岩手県	3	1.9%	大阪府	5	3.1%
宮城県	1	0.6%	兵庫県	6	3.7%
秋田県	0	0.0%	奈良県	0	0.0%
山形県	3	1.9%	和歌山県	1	0.6%
福島県	0	0.0%	鳥取県	2	1.2%
茨城県	2	1.2%	島根県	1	0.6%
栃木県	2	1.2%	岡山県	5	3.1%
群馬県	0	0.0%	広島県	1	0.6%
埼玉県	1	0.6%	山口県	2	1.2%
千葉県	4	2.5%	徳島県	1	0.6%
東京都	22	13.7%	香川県	3	1.9%
神奈川県	5	3.1%	愛媛県	2	1.2%
新潟県	0	0.0%	高知県	1	0.6%
富山県	0	0.0%	福岡県	9	5.6%
石川県	2	1.2%	佐賀県	1	0.6%
福井県	2	1.2%	長崎県	3	1.9%
山梨県	0	0.0%	熊本県	4	2.5%
長野県	5	3.1%	大分県	2	1.2%
岐阜県	8	5.0%	宮崎県	1	0.6%
静岡県	3	1.9%	鹿児島県	3	1.9%
愛知県	12	7.5%	沖縄県	4	2.5%
三重県	6	3.7%	無回答	3	1.9%
合計			161	100.0%	

最後に生活していた施設・里親の都道府県でみると、40 都道府県から回答がありました。現在住んでいる都道府県と数値が異なるということは、最後に生活していた施設・里親の都道府県から引っ越し現在は他の都道府県に住んでいることになります。その比較のため、現在住んでいる都道府県と最後に生活していた施設・里親の都道府県が一致するかについて集計しました。その結果、130人（80.7%）は最後に生活していた施設・里親の都道府県と現在も同じ都道府県に住んでいることが分かりました。

現在の都道府県と施設・里親の都道府県の比較 (n=161)		割合
現在も同じ都道府県に住んでいる	130	80.7%
施設・里親とは異なる都道府県に住んでいる	28	17.4%
無回答	3	1.9%
合計	161	100.0%

■ 同じ都道府県 ■ 異なる都道府県 ■ 無回答



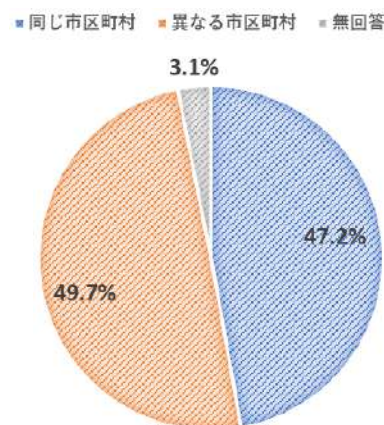
⑦ 現在住んでいる市区町村

現在住んでいる市区町村 (n=161)		割合
特別区 (東京23区内)	13	8.1%
人口500,000人以上 (政令指定都市の目安)	45	28.0%
人口200,000人~499,999人 (中核市の目安)	33	20.5%
人口50,000人~199,999人 (市の目安)	46	28.6%
人口50,000人未満 (町村の目安)	21	13.0%
無回答	3	1.9%
合計	161	100.0%

現在住んでいる市区町村もうかがい、総務省「地方公共団体の区分」を参考に2021年1月1日住民基本台帳から人口別で集計しました。その結果、半数以上(56.6%)が特別区を含め中核市以上の人口規模に現在住んでいる結果となりました。

都道府県と同様に現在住んでいる市区町村と最後に生活していた施設・里親の市区町村が一致するかについても集計しました。その結果、76人(47.2%)は最後に生活していた施設・里親の市区町村と現在も同じ市区町村に住んでおり、80人(49.7%)は異なる市区町村に住んでいることが分かりました。先ほどの都道府県の結果から、80人中28人は異なる都道府県、52人は同じ都道府県だけ異なる市区町村に住んでいる結果が分かります。

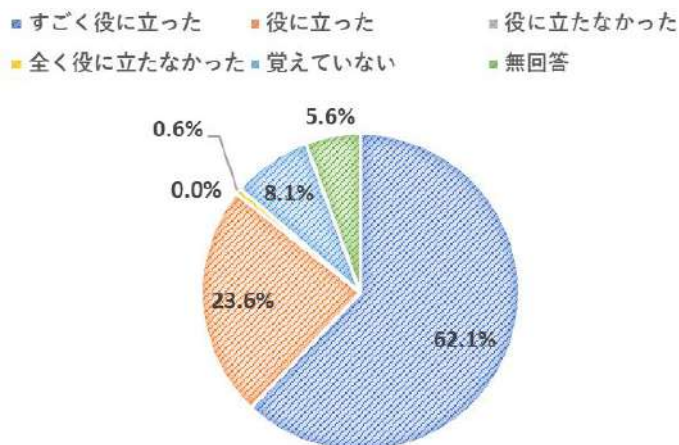
現在の市区町村と施設・里親の市区町村の比較 (n=161)		割合
現在も同じ市区町村に住んでいる	76	47.2%
施設・里親とは異なる市区町村に住んでいる	80	49.7%
無回答	5	3.1%
合計	161	100.0%



(2) 給付金について

① あすのばの給付金がどのくらいお役に立てたか

どのくらいお役に立てたか (n=161)		割合
すごく役に立った	100	62.1%
役に立った	38	23.6%
役に立たなかった	0	0.0%
全く役に立たなかった	1	0.6%
覚えていない	13	8.1%
無回答	9	5.6%
合計	161	100.0%



138人(85.7%)の人が「すごく役に立った」、「役に立った」と回答しました。一方、過去に実施の2016年度に給付金を届けた『子どもの生活と声1500人アンケート』では子ども本人の「とても役に立った」、「役に立った」割合は98%だったことから、過去類似調査の結果より12.3ポイント低い満足度の結果となりました。

② 役に立った最も近い理由

役に立った最も近い理由 (n=138)		割合
返さなくてもいい	46	33.3%
就職する人ももらえる	19	13.8%
社会的養護でももらえる	5	3.6%
入学・新生活の直前直後にももらえる	37	26.8%
使い道が限られていない	14	10.1%
最低限の手続きで申し込める	7	5.1%
その他	4	2.9%
無回答	6	4.3%
合計	138	100.0%

「すごく役に立った」、「役に立った」と回答した人には、最も近い理由を1つ選んでいただきました。最も多かったのは「返さなくてもいい」(33.3%)、次に多かったのは「入学・新生活の直前直後にももらえる」(26.8%)でした。

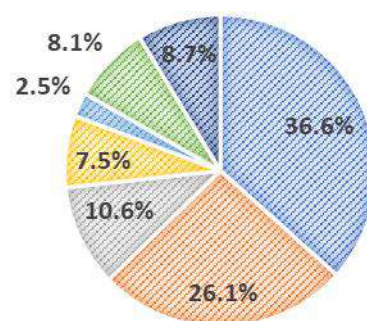
なお、『子どもの生活と声 1500人アンケート』と比較して、この給付型であることと入学・新生活の直前直後にももらえることが順に高い結果は同じでした。また、顕著に異なる割合は「返さなくてもいい」(今回33.3%・過去47.6%で14.3ポイント前回より低い結果*)、「就職する人ももらえる」(今回13.8%・過去7.6%で6.2ポイント前回より高い結果*)でした。社会的養護の区分では住民税非課税・生活保護世帯の区分と比較して就職する人により給付している前提がありますが、就職する人(進学しない人)への給付金ニーズが高いことを結果から考察することができます。

*前回は「返さなくていい」、「成績不問や就職する人などももらえる」という選択肢でした。

③ お金以外の面でも意義があったか

お金以外の面でも意義はあったか (n=161)		割合
不安が減り、気持ちが楽になった	59	36.6%
応援してくれている人がいることを感じた	42	26.1%
希望の進路を諦めずに済んだ	17	10.6%
新生活で自分のやりたいことができた	12	7.5%
特にお金以外の面で意義を感じなかった	4	2.5%
覚えていない	13	8.1%
無回答	14	8.7%
合計	161	100.0%

■ 気持ちが楽になった
■ 諦めずに済んだ
■ 意義を感じなかった
■ 無回答
■ 応援してくれている人がいる
■ やりたいことができた
■ 覚えていない

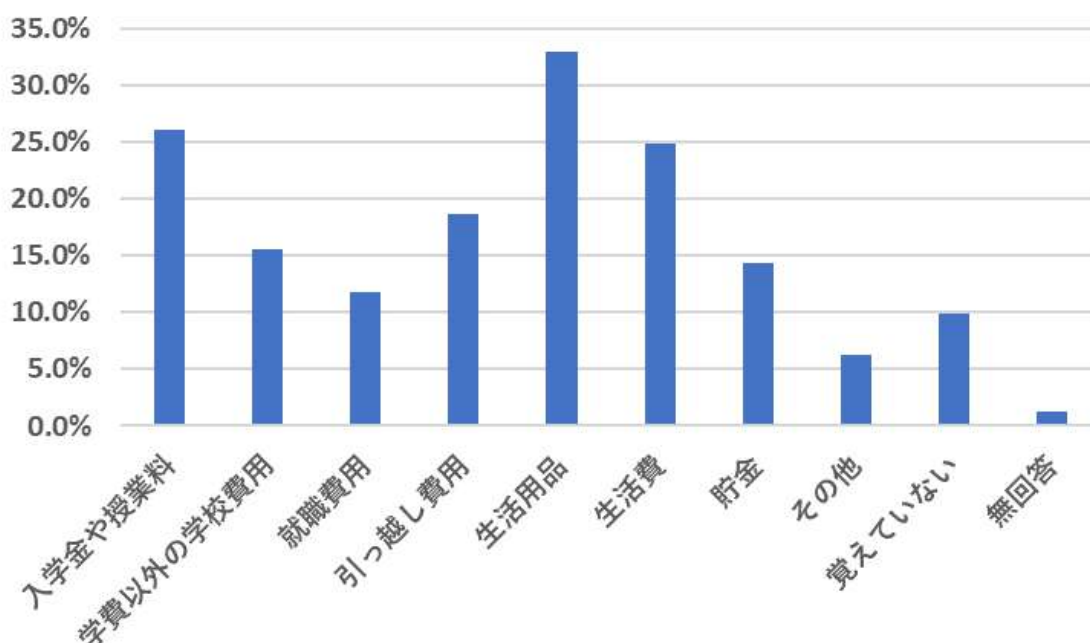


回答者には最も近いものを1つ選んでいただきました。およそ5人に1人(19.3%)は積極的な意義づけを除く「特にお金以外の面で意義を感じなかった」、「覚えていない」、「無回答」で、80.7%の人にはお金以外の面でも意義があったと考えられます。

そのうち、心理的な負担の軽減を意図した「不安が減り、気持ちが楽になった」(36.6%)が一番多く、次にエンパワーメント効果を意図した「応援してくれている人がいることを感じた」(26.1%)が多い結果でした。なお、「希望の進路を諦めずに済んだ」、「新生活で自分のやりたいことができた」は経済的ニーズの充足度を意図してうかがい、結果から給付金は経済的ニーズを圧倒的に充足できるものではないけど、入学・新生活へ向けた経済的な不安の解消や応援してくれる人がいることを感じられる効果が比較的高い性質を持っていると考察することができます。

④給付金の使い道

給付金の使い道（複数回答 n=161）		割合
入学金や授業料	42	26.1%
学費以外の学校のための費用（制服や文房具など）	25	15.5%
就職するための費用（スーツ・作業着や通勤カバンなど）	19	11.8%
引っ越し費用（初期費用）	30	18.6%
生活用品（家具や家電など）	53	32.9%
生活費	40	24.8%
貯金	23	14.3%
その他	10	6.2%
覚えていない	16	9.9%
無回答	2	1.2%



給付金の使い道については、過去の『子どもの生活と声 1500人アンケート』を参考に今回は項目を作成し質問しました。その結果、使い道として一番多かったのは「生活用品(家具や家電など)」(32.9%)で、次に「入学金や授業料」(26.1%)、「生活費」(24.8%)が多い使い道でした。

具体的な使い道も自由記述で回答していただき、「その他」については主に以下の使い道などが書かれていました。

<その他>

- ・自動車学校 ・留学の費用に使わせていただきました
- ・作業着の支給はあっても業務中の靴は自己負担だった。寒暖差の対応にアウターを買った。最も費やしたのは、眼鏡を新調した
- ・病院等の支払い

また、それぞれの項目の具体的な使い道の主な例は以下の通りです。

<入学金や授業料>

- ・高校入学金 ・専門学校の学費 ・大学の授業料 ・塾の授業料

<学費以外の学校費用>

- ・オンライン授業に必要なプリンターやパソコン、教科書など
- ・バスケットボールの遠征費などに使った。 ・ウィッグや、コンテスト代
- ・高校の制服 ・定期代、弁当代など
- ・職業訓練校に入学しました。作業着や教科書、スーツを購入しました

<就職費用>

- ・就職するためのスーツやバッグ、パンプスを購入させていただきました
- ・スーツ、シャツブラウス、靴、靴 ・仕事に行く為の服

<引っ越し費用>

- ・引っ越しの初期費用 ・アパート契約の初期費用

<生活用品>

- ・自転車 ・電子レンジ、カラーボックスなどを購入しました
- ・布団や電子レンジ等の生活用品 ・冷蔵庫の購入代金に利用させていただきました
- ・洗濯機の費用の足しにした ・ベッド
- ・炊飯器、掃除機、タンス、テーブル、物干しなど ・ほしかったテレビが買えた

<生活費>

- ・食費、携帯代、家賃等 ・新生活のこざこざした物や、当面の小遣いに使いました
- ・日常生活に必要な消耗品として使わせさせていただきました。 ・1番最初の家賃を払いました

<貯金>

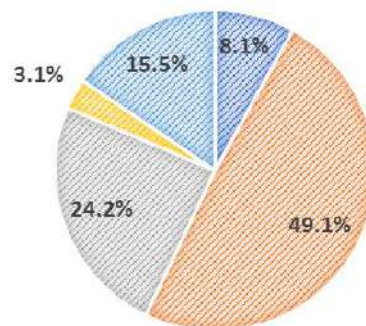
- ・全ては使わず安心のため何かあった時に必要な分を支払えるように貯金しました
- ・将来のための貯金です ・大学のためにも、少しでも貯金しておきたいから

⑤入学・新生活でどのくらいお金が必要だったか

平均値は 32.5 万円、中央値は 20 万円という結果でした。また、準備していたお金が足りていたかについて 92 人 (57.2%) は「十分に足りていた」、「足りていた」、44 人 (27.3%) は「不足していた」、「かなり不足していた」と回答しました。

準備していたお金が足りていたか (n=161)	割合
十分に足りていた	13 8.1%
足りていた	79 49.1%
不足していた	39 24.2%
かなり不足していた	5 3.1%
無回答	25 15.5%
合計	161 100.0%

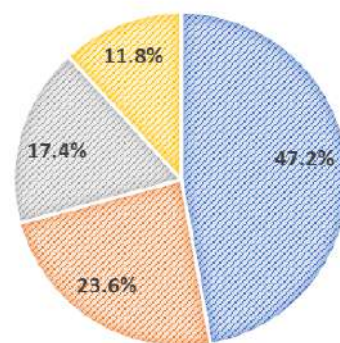
■十分に足りていた ■足りていた ■不足していた
■かなり不足していた ■無回答



そして、「不足していた」、「かなり不足していた」と回答した人にはどのくらいお金が不足していたかもうかがい、不足金額の平均値は26.7万円、中央値は15万円という結果でした。

なお、入学・新生活で必要なお金をまかなうため、あすのば以外の給付金を利用した人は76人(47.2%)で、利用していない人は38人(23.6%)でした。 ■ はい ■ いいえ ■ 分からない ■ 無回答

あすのば以外の給付金を利用したか (n=161)		割合
はい	76	47.2%
いいえ	38	23.6%
分からない	28	17.4%
無回答	19	11.8%
合計	161	100.0%



⑥だれが給付金の申し込みを行ったか

だれが給付金の申し込みを行ったか (n=161)		割合
私 (本人)	40	24.8%
施設職員・里親	97	60.2%
分からない	17	10.6%
無回答	7	4.3%
合計	161	100.0%

およそ4人に1人(24.8%)は本人が申し込みを行っていました。

残り4人に3人は本人以外(施設職員・里親60.2%)か分からない(10.6%)・無回答(4.3%)でした。

⑦いつ頃、給付金のことを知ったか

いつ頃、給付金のことを知ったか (n=161)		割合
申し込む前から知っていた	58	36.0%
施設職員・里親が申し込んでから知った	66	41.0%
給付金をもらってから知った	8	5.0%
このアンケートが届いてから知った	18	11.2%
無回答	11	6.8%
合計	161	100.0%

「申し込む前から知っていた」人は58人(36.0%)で、半数以上(57.2%)は申し込み後や給付金をもらった以降に知ったという結果でした。そのうち、アンケートが届いてから知った人は18人(11.2%)でした。

(3) 仕事・学校について

①施設・里親を退所した直後の進路

施設等を退所した直後の進路 (n=161)		割合
就職	86	53.4%
進学	61	37.9%
未定だった	4	2.5%
その他・無回答	10	6.2%
合計	161	100.0%

半数以上(53.4%)が就職でした。選考段階で偏りが出る点や現在の高校生世代も含まれるため比較はできませんが、2019年度末の厚生労働省『高等学校等卒業後の進路』と大きな相違はありませんでした(就職58.8%・進学33.1%)。また、厚生労働省・2020年度子ども・子育て支

援推進調査研究事業『児童養護施設等への入所措置や里親委託等が解除された者の実態把握に関する全国調査』（三菱UFJリサーチ&コンサルティング受託・以下、ケアリーバー全国調査）との比較でも、就職・進学ともにケアリーバー全国調査の結果に大きな相違はありませんでした（就職53.5%・進学36.3%）*。なお、その他の「措置延長」記述は無回答と合計しました。

*ケアリーバー全国調査における就職の引用は「就職」と「当時働いていた職場に引き続き就労」の合計で、進学の引用は「進学」と「当時通っていた学校に引き続き進学」の合計です。

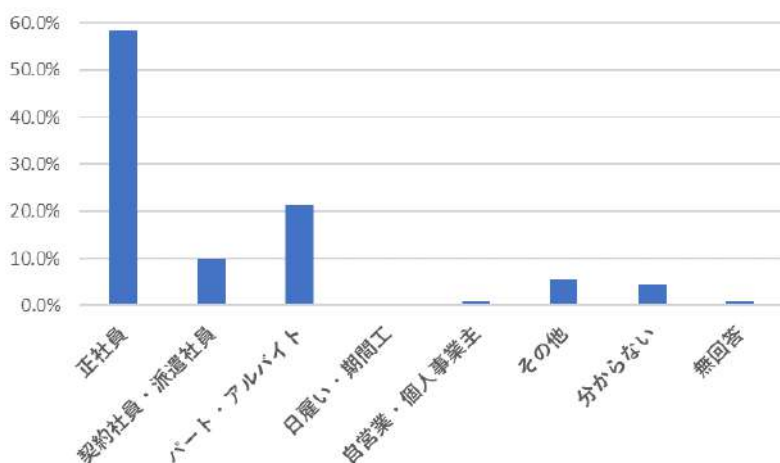
②現在の仕事や学校

現在の仕事や学校 (n=161)		割合
働いている	89	55.3%
在学している	56	34.8%
働いても在学してもない	13	8.1%
無回答	3	1.9%
合計	161	100.0%

現在は働いている人が89人（55.3%）と退所した直後の進路と比べて3人増え、在学している人は56人（34.8%）と比較し5人減っている結果となりました。卒業や退学、一度就職した後に進学したなど状況は様々ですが、全体の構成としては5年で大きな変化はありませんでした。

③働いている人の現在の働き方

現在の働き方 (複数回答 n=89)		割合	ケアリーバー全国調査	差
正社員	52	58.4%	51.8%	6.6%
契約社員・派遣社員	9	10.1%	8.6%	1.5%
パート・アルバイト	19	21.3%	34.5%	-13.2%
日雇い・期間工	0	0.0%	1.3%	-1.3%
自営業・個人事業主	1	1.1%	1.5%	-0.4%
その他	5	5.6%	3.4%	2.2%
分からない	4	4.5%	1.6%	2.9%
無回答	1	1.1%	0.2%	0.9%



「正社員」の割合が58.4%と最も高く、ケアリーバー全国調査と比較して6.6ポイント高い結果でした。次に「パート・アルバイト」(21.3%・同13.2ポイント低)、「契約社員・派遣社員」(10.1%・同1.5ポイント高)の割合が高い結果でした。「その他」は、就労支援施設などがあげられました。

④在学している人の学校の種類

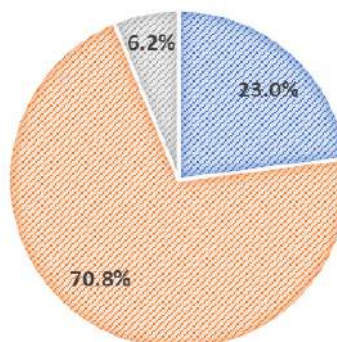
在学している人の学校の種類 (n=56)	割合	ケアリーバー全国調査	差
全日制高校 (普通科)	4	19.1%	-6.6%
全日制高校 (職業科)	3		
定時制・通信制高校	3	9.9%	-4.5%
専門学校・短期大学	20	30.9%	4.8%
4年生大学	23	35.7%	5.4%
その他	1	3.8%	-2.0%
無回答	2	0.6%	3.0%
合計	56	100.0%	---

「4年生大学」(41.1%)の割合が一番高く、次に「専門学校・短期大学」(35.7%)、「全日制高校(普通科)」(7.1%)が多い結果となりました。ケアリーバー全国調査と比較して、このアンケートの回答者は大学生世代が多いことが分かります。一方、ケアリーバー全国調査は686人と母数には大きな差がありますが、割合の高い順番は「その他」と「無回答」の順を除いて同じ結果となりました。「その他」は職業訓練校でした。

⑤今までに仕事を辞めた経験

今までに仕事を辞めた経験 (n=161)	割合
ある	37 23.0%
ない	114 70.8%
無回答	10 6.2%
合計	161 100.0%

■ある ■ない ■無回答

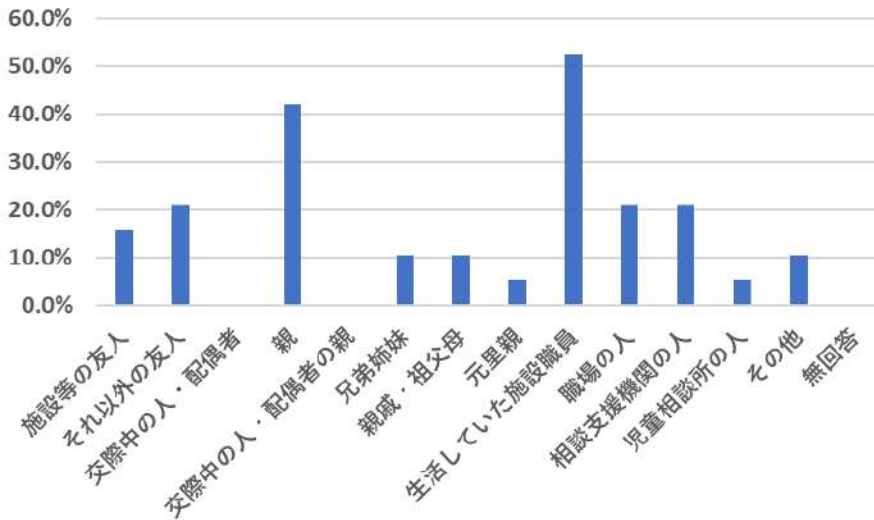


37人(23.0%)が「ある」と回答しました。また、仕事を辞めた経験が新型コロナウイルス感染拡大の影響によるものかうかがってみたところ、37人中11人(29.7%)が「はい」と回答しました。仕事を辞めるときに誰かに相談したかについては19人(51.4%)が「はい」と回答しました。

新型コロナの影響 (n=37)	割合
はい	11 29.7%
いいえ	25 67.6%
無回答	1 2.7%
合計	37 100.0%

誰かに相談したか (n=37)	割合
はい	19 51.4%
いいえ	13 35.1%
無回答	5 13.5%
合計	37 100.0%

だれに相談したか (複数回答 n=19)	割合	だれに相談したか (複数回答 n=19)	割合
施設等で生活したことがある友人	3 15.8%	元里親	1 5.3%
それ以外の友人	4 21.1%	生活していた施設職員	10 52.6%
交際中の人・配偶者(結婚相手)	0 0.0%	職場の人	4 21.1%
親	8 42.1%	相談支援機関の人	4 21.1%
交際中の人・配偶者(結婚相手)の親	0 0.0%	児童相談所の人	1 5.3%
兄弟姉妹	2 10.5%	その他	2 10.5%
親戚・祖父母	2 10.5%	無回答	0 0.0%

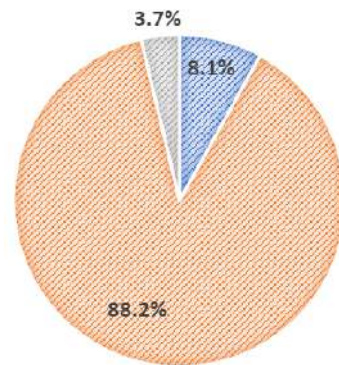


相談した人は「生活していた施設職員」(52.6%)の割合が最も多く、次に「親」(42.1%)の割合が多い結果でした。母数は少ないですが、「相談支援機関の人」(21.1%)の割合をみると割合が特段高い訳ではなく、あすのばのような支援団体が今後どのように連携していくのかについて考えさせられる結果となりました。「その他」には、高校のときの先生があげられました。

⑥今までに学校を辞めた経験

今までに学校を辞めた経験 (n=161)		割合
ある	13	8.1%
ない	142	88.2%
無回答	6	3.7%
合計	161	100.0%

■ある ■ない ■無回答



13人(8.1%)が「ある」と回答しました。また、学校を辞めた経験が新型コロナウイルス感染拡大の影響によるものかうかがって見たところ、13人中1人(2.7%)が「はい」と回答しました。学校を辞めるときに誰かに相談したかについては7人(18.9%)が「はい」と回答しました。

新型コロナの影響 (n=13)		割合
はい	1	2.7%
いいえ	12	32.4%
無回答	0	0.0%
合計	13	35.1%

誰かに相談したか (n=13)		割合
はい	7	18.9%
いいえ	5	13.5%
無回答	1	2.7%
合計	13	35.1%

だれに相談したか (複数回答 n=7)		割合	だれに相談したか (複数回答 n=7)		割合
施設等で生活したことがある友人	0	0.0%	元里親	1	14.3%
それ以外の友人	0	0.0%	生活していた施設職員	4	57.1%
交際中の人・配偶者(結婚相手)	0	0.0%	職場の人	0	0.0%
親	2	28.6%	相談支援機関の人	0	0.0%
交際中の人・配偶者(結婚相手)の親	0	0.0%	児童相談所の人	0	0.0%
兄弟姉妹	0	0.0%	その他	1	14.3%
親戚・祖父母	0	0.0%	無回答	0	0.0%

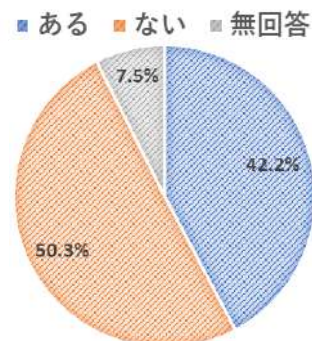
(「その他」は、中学校のときの担任)

(4) 施設・里親での生活について

①施設・里親のもとで生活した期間と生活のプロセス

平均値では約 8.8 年（およそ 8 年 10 カ月）、中央値では 8 年という結果でした。また、最後に生活していた施設・里親以外の施設・里親で生活した経験（施設から里親などの措置変更または家庭復帰後再措置の経験）をうかがい、68 人（42.2%）は「ある」と回答しました。

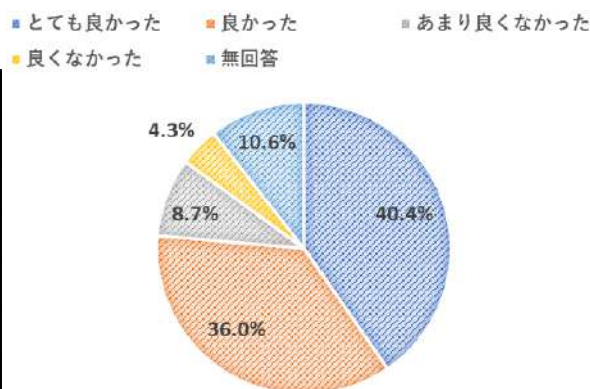
最後に生活していた施設・里親以外での生活 (n=161)		割合
ある	68	42.2%
ない	81	50.3%
無回答	12	7.5%
合計	161	100.0%



「ある」と回答した人には、それぞれの世代区分で生活していた施設・里親の種類をうかがいました。解析の結果、一例として次のページ表のような生活のプロセスが見えてきました。一言に「社会的養護を経験した」と言っても現在に至るまで多様な背景や生活のプロセスを持っていることが分かります。

②施設・里親での生活をふりかえって

施設・里親での生活をふりかえって (n=161)		割合
とても良かった	65	40.4%
良かった	58	36.0%
あまり良くなかった	14	8.7%
良くなかった	7	4.3%
無回答	17	10.6%
合計	161	100.0%



施設・里親での生活を振り返って、そこでの生活は良かったと思うかうかがってみたところ、「とても良かった」と「良かった」を合わせて 76.4% の割合で良かったと回答がありました。「あまり良くなかった」、「良くなかった」の割合は合わせて 13.0% でした。良かった理由、良くなかった理由もうかがい、主にあげられた理由は 18 ページ以降に掲載しています。

③施設・里親との連絡頻度

この一年間の施設・里親との連絡頻度 (n=161)		割合
週に1回以上	27	16.8%
月に1回以上	45	28.0%
2~3ヶ月に1回以上	37	23.0%
半年間に1回以上	18	11.2%
1年間に1回程度	12	7.5%
1年間に1回もない	6	3.7%
無回答	16	9.9%
合計	161	100.0%

新型コロナの影響 (n=161)		割合
減った	50	31.1%
変わらない	88	54.7%
増えた	4	2.5%
無回答	19	11.8%
合計	161	100.0%

「月に1回以上」(28.0%)が最も多く、次に「2~3ヶ月に1回以上」(23.0%)が多い結果となりました。また、新型コロナウイルス感染拡大による連絡頻度の影響について88人(54.7%)が「変わらない」と回答した一方、50人(31.1%)が「減った」と回答しました。

【表】(4) ①施設・里親のもとで生活した期間と生活のプロセスの一例

小学生入学前まで	小学校	中学校	中学校卒業以降	年数
家庭	家庭	家庭	一時保護所と児童養護施設	1
乳児院	家庭	児童養護施設	家庭	1
家庭	家庭	家庭	一時保護所と児童養護施設	2
家庭	家庭	家庭	児童養護施設と里親	2
家庭	一時保護所	一時保護所	児童養護施設	3
家庭	一時保護所	児童養護施設	家庭	4
家庭	家庭	一時保護所と児童自立支援施設	児童養護施設	4
家庭	家庭	児童自立支援施設	児童養護施設	4
家庭	家庭	児童養護施設	児童養護施設	4
家庭と一時保護所	一時保護所	児童養護施設	児童養護施設と自立援助ホーム	4
家庭と一時保護所	家庭	一時保護所と児童養護施設	児童養護施設	4
家庭	一時保護所と児童養護施設	児童養護施設	児童養護施設	5
家庭	家庭	児童自立支援施設	里親	5
家庭と一時保護所	家庭	一時保護所と児童養護施設	児童養護施設	5
家庭と一時保護所	家庭	一時保護所と児童養護施設	児童養護施設	5
家庭と一時保護所	児童養護施設	児童養護施設	児童養護施設	5
乳児院	家庭	児童養護施設と里親	ファミリーホーム	5
家庭	家庭	里親と児童養護施設	児童養護施設	6
家庭	家庭	児童養護施設	児童養護施設と里親	6
一時保護所と児童養護施設	一時保護所	児童自立支援施設	自立援助ホーム	7
家庭	一時保護所	ファミリーホーム	ファミリーホーム	7
家庭	一時保護所と児童養護施設	児童養護施設	児童養護施設	7
家庭と一時保護所	一時保護所	児童養護施設	児童養護施設	7
一時保護所と児童養護施設	児童養護施設	児童養護施設と児童自立支援施設	家庭	8
家庭	一時保護所と児童養護施設	児童養護施設	児童養護施設	8
児童養護施設	家庭	児童自立支援施設	児童養護施設	8
家庭	一時保護所と児童養護施設	児童養護施設	児童養護施設と里親	10
家庭と一時保護所	一時保護所と児童養護施設	児童養護施設	児童養護施設	10
家庭と一時保護所	児童養護施設	児童養護施設	児童養護施設	10
里親	児童養護施設	児童養護施設	児童養護施設	11
里親	里親と児童養護施設	児童養護施設	児童養護施設	12
児童養護施設	児童養護施設	一時保護所と児童養護施設	児童養護施設とファミリーホーム	13
一時保護所と児童養護施設	児童養護施設	児童養護施設	児童養護施設	14
児童養護施設	児童養護施設	児童養護施設と児童心理治療施設	児童養護施設	14
乳児院	児童養護施設	児童養護施設	児童養護施設	14
里親	児童養護施設	児童養護施設	児童養護施設	15
乳児院	児童養護施設	児童養護施設	児童養護施設	15
乳児院	児童養護施設	児童養護施設	児童養護施設	15
乳児院	児童養護施設	児童養護施設	児童養護施設	16
児童養護施設	一時保護所と児童養護施設	児童養護施設	児童養護施設	17
児童養護施設	一時保護所と児童養護施設	児童養護施設	児童養護施設	18
児童養護施設と里親	里親	里親	里親とファミリーホーム	18
乳児院	里親	里親	里親	18
一時保護所と児童養護施設	家庭	一時保護所と児童養護施設	自立援助ホーム	無回答

【良かった理由の一例】(4) ②施設・里親での生活をふりかえって

- ・色んな人、色んな考え方、色んな生き方を知ることが出来た。
- ・楽しかった
- ・やりたい事がたくさんできた。
- ・いろんな経験を通して自分自身の成長に繋がった。
- ・なんだかんだで楽しかったです
- ・ずっと一緒だったイトコが里親になってくれたから
- ・本当に居心地が良かった施設とは思えない家族の温かさがあった
- ・支えてくれた
- ・私をたくさん支援してくださり高校入学や就職も含めて、全てに関して感謝しています。
- ・何かあった時に助けてくれる人(先生)がいつもそばにいてたから
- ・自由だったから
- ・職員の方の支援や、ご飯、生活のしやすさ、友達が多かったこと。
- ・小さな頃から血の繋がりの無い子どもと衣食住を共にし、社会的なコミュニケーションのスキルや、物事の多面的な見方を学んだため。
- ・みんな優しくかったから
- ・自分の事を分かってくれる職員がいたから
- ・家庭では体験することが少ない、同士との交流、催し物への参加を体験することができた。また、独りで過ごすことが少なく孤独を感じる事が無かった。
- ・立地がすごい良いところで、一緒に入所している子も生活しやすい人ばかりだった
- ・いろいろな大人に相談できて、いろいろなことをサポートしてくれた。
- ・安心できる
- ・とても過ごしやすくて里親さんも優しくかったから
- ・行事も充実していた。
- ・自分を見つめ直せたから
- ・自分を守ってくれる人、応援してくれてる人がこんなにいるんだと知れたから。
- ・お金のことも高校の時は全部自分で管理をしていて、足りないどうしようと考えていたが、里親さんと暮らしていたことでその不安部分が解消された。
- ・ちゃんと3食ご飯があったり、自分の気持ちに職員が寄り添ってくれた
- ・相談する相手がすぐ側にいる。
- ・衣食住に困らない。そこで生活していなければ、たぶん死んでいた。
- ・ご飯が毎日出る
- ・実家で暮らすよりも安定した生活が過ごすことができたから。例えばご飯が朝昼晩しっかり用意されており、ましてやおやつも用意されていたことや、お小遣いだって用意されていたこと。

- ・ 沢山の人たちと触れ合い。生活していく中で、1人じゃない。と感じれた。
- ・ 今となっては懐かしい。私の大切な思い出の一つ。
- ・ この思い出や経験はマイナスに捉えがちだが、僕はむしろプラスに思う。
- ・ なぜなら、ほとんどの人が経験できないことを私たちは経験して乗り越えてきた。辛いこともあったが、乗り越える力を持っている。私たちは生まれながら強く生まれたのだ。強く生まれたからには弱きものを救う責務がある。だからこれからもたくさんの人に与え続けていきたい
- ・ 社会人に向けて色々な人の意見とかを参考にしたりなどで成長出来ました
- ・ 施設を出てから色んなことをしてもらっていたなと痛感した。
- ・ 規則正しい生活ができいろいろなことを経験できた
- ・ 親身になって接してくれる
- ・ 他の人とのコミュニケーションが取れる
- ・ 正直、自分の生きている意味も何でこの場所にいるのかもわからない状態だった。そこを施設で過ごして行くうちに色々見えてくる事が出来て今では施設に入った事、卒園出来たことは良かったと思っています！
- ・ 可もなく不可もなく過ごせた
- ・ 金銭面で助けられた
- ・ 居場所があったから
- ・ 自由で縛られない生活が送れたのと、色んな年齢の人と関わって普通の家庭では味わえない経験が送れたから
- ・ 教育面に特に力を入れてくれました。
- ・ 施設職員や施設内の児童がみんな明るくてフレンドリーで気があったから。
- ・ 友人がたくさんできて、寂しさを感じる事があまりなかったなから。
- ・ 職員の支援のおかげで、今の生活できているから。
- ・ 母親のところにいたら就職できなくてニートになると確信していたので凄くありがたかった
- ・ ほかの児童や先生との関係が充実していたから
- ・ やりたかった事ができた。
- ・ 充実した高校生活を送る事ができた。
- ・ 進学は金銭的に厳しかったけど就職の道をしっかりとサポートしてくれた。
- ・ 人間関係を学べた。
- ・ 家庭の温もりを感じる事ができた。
- ・ 規則正しい生活や勉強する環境等
- ・ プライバシーと自由と安全があった。
- ・ 自立する力をつけられた

- ・先生たちが優しい
- ・対人関係やコミュニケーション、金銭管理、整理整頓を学べたから
- ・職員や児童といるのが楽しかった
- ・普通のこと知れた
- ・家にいる方が辛かったから
- ・色々な体験が出来た。
- ・友達ができた
- ・色んなところに連れて行ってもらったから。
- ・家族として過ごせたこと。
- ・就労する現在もその環境に変わりはないこと。
- ・生きていく方法が学べた
- ・生活支援を丁寧してくれた
- ・中学3年の夏頃までいじめられてたけど違う施設に引越ししてから新しい自分に出逢えたから。
- ・集団生活ができた
- ・進学をサポートやトラブルなども真摯に向き合ってくれました。
- ・母と違って相談にのってもらえるし、同年代の友達ができ、安心して生活できるから。
- ・養護施設の職員の先生とメンバーと一緒に過ごす時間が楽しかった。
- ・経済的に安定していたから精神が安定した。支えてくれる人がいた
- ・家庭とは違い、とても充実した日々を送っていました
- ・家に帰ったら誰かがいた事。
- ・意外と普通の家感覚で生活できた
- ・生活習慣が身に付いた
- ・伸び伸びと生活できていたから
- ・人間関係の修復、十分な社会勉強
- ・一人暮らしの勉強になった。
- ・生活している時は嫌で嫌で仕方なくて早く出ていきたくったけど、生活しているうちに洗濯や掃除、お金の管理などの生活していく上で必要な事を学べていた。また、困った時にはいつでも助けてくれていたことや、愛情を注がれていたことに気がついたから。無駄ではなかったと思った。むしろ良かったと思えた。
- ・親族里親なので、気持ちは楽でした。
- ・支援の仕方が良かった
- ・全てが良かったとは思いません。辛いことも多くありました。しかし職員の人立ちに助けられていたのは事実です。そこで出逢えた友達も多くいます。
- ・施設に来た時から現在まで幸せに暮らせているから

- ・施設の子どもたちや職員と出会えたことや学校の友達とも出会えたこと。
- ・何不自由なく暮らせたため
- ・お弁当を作ってくれたり当たり前のようにご飯が出てきて、いろいろ優遇されていたから
- ・高校に進学できたこと、卒業まで頑張ることができた。職業訓練校にも入学できて、今は違う仕事をしているが役に立った。

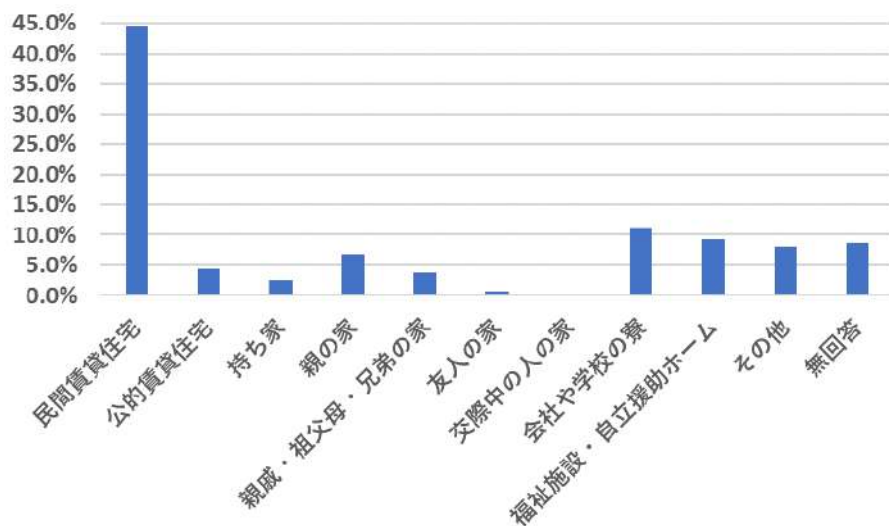
【良くなかった理由の一例】（４）②施設・里親での生活をふりかえって

- ・我慢することが多かったから、
- ・家族以外の人と暮らすのがきつかった
- ・職員が脅しているような感じだった
- ・社会を知れない。施設の中での生活が普通になってしまい社会に出ると苦労する。
- ・学園の子供達が荒れていた為あまり良い印象ではなかったです
- ・相談乗れる人もいないしいるのが辛くなった
- ・自分の元の生活とは真逆で安心できる場所、時間がなかったから。
- ・職員はいい人達でしたが、一緒に住んでいた子供達とはあまり仲が良くなかった。
- ・卒園するまでの高校三年間は優しく親切な良い職員に恵まれたが、小学校中学年から中学卒業までの間に担当だった職員の態度がきつかった
- ・ケンカしたり毎日バカにされたり、嫌な事がたくさんあったから
- ・児童自立支援施設はちゃんとその人にあった話し合いをしてくれる。話も聞いてくれる。児童養護施設は先生たちの気分に合わせてるのが大変だった。話もまともに聞いてくれない。
- ・里親とのコミュニケーションが上手くいかなかった
- ・引継ぎがされなかった
- ・縛りが多く自由がない
- ・児童養護施設ではセクハラを受けたから
- ・コンプレックスを常に感じていたから。

(5) 現在の生活について

①施設・里親を退所した直後、どのようなところに住んだか

施設等を退所した直後、どのようなところに住んだか (n=161)		割合
民間賃貸住宅 (マンション・アパートなど)	72	44.7%
公的賃貸住宅 (公団・県営・市営住宅など)	7	4.3%
持ち家 (戸建て・マンションなど)	4	2.5%
親の家	11	6.8%
親戚・祖父母・兄弟の家	6	3.7%
友人の家	1	0.6%
交際中の人の家	0	0.0%
会社や学校の寮	18	11.2%
福祉施設・自立援助ホーム	15	9.3%
その他	13	8.1%
無回答	14	8.7%
合計	161	100.0%



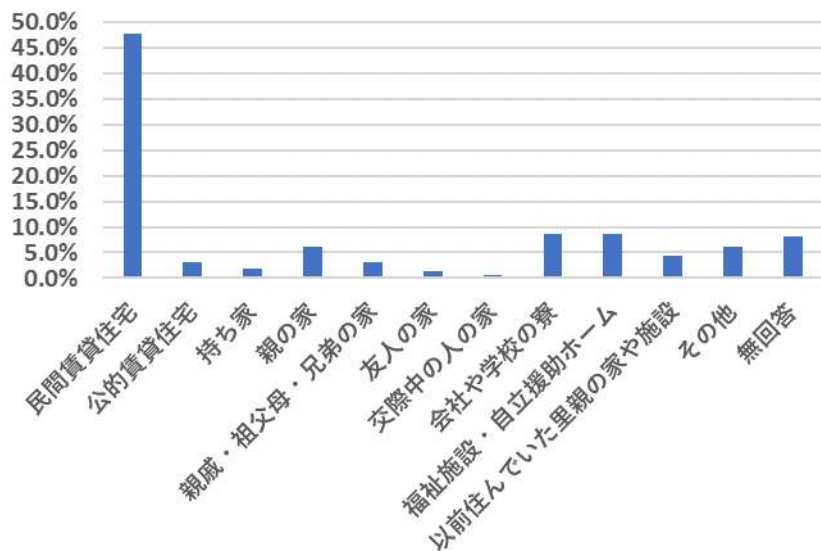
「民間賃貸住宅」(44.7%)の割合が最も高く、次に「会社や学校の寮」(11.2%)、「福祉施設・自立援助ホーム」(9.3%)の割合が高い結果でした。また、「親の家」(6.8%)と「親戚・祖父母・兄弟の家」(3.7%)を合計し、広義の家庭復帰とみられる割合は10.5%でした。「その他」には主に措置延長や引き続き里親の家にいることなどがあげられました*。

なお、前述の類似調査であるケアリーバー全国調査では、「民間賃貸住宅」(41.9%)、「会社や学校の寮」(19.1%)、「親の家」(17.3%)の順で割合の高い結果となっていました。給付金の選考に退所後の住まいも影響するため偏りが出ていますが、ケアリーバー全国調査と比較し、上記の範囲において「親の家」が10.5ポイント、「会社や学校の寮」が7.9ポイント低い特に差のある結果となりました。ケアリーバー全国調査において「福祉施設・自立援助ホーム」は8.6%、「親戚・祖父母・きょうだいの家」は3.8% (広義の家庭復帰21.1%)という結果でした。

*進学・就職に際し措置延長を認めることが増えたことやその場合は措置費で支度費が支出されないことなどから、2019年度から給付金は高校卒業世代について措置延長も対象となりました。

②現在、どのようなところに住んでいるか

現在、どのようなところに住んでいるか (n=161)		割合
民間賃貸住宅 (マンション・アパートなど)	77	47.8%
公的賃貸住宅 (公団・県営・市営住宅など)	5	3.1%
持ち家 (戸建て・マンションなど)	3	1.9%
親の家	10	6.2%
親戚・祖父母・兄弟の家	5	3.1%
友人の家	2	1.2%
交際中の人の家	1	0.6%
会社や学校の寮	14	8.7%
福祉施設・自立援助ホーム	14	8.7%
以前住んでいた里親の家や施設	7	4.3%
その他	10	6.2%
無回答	13	8.1%
合計	161	100.0%



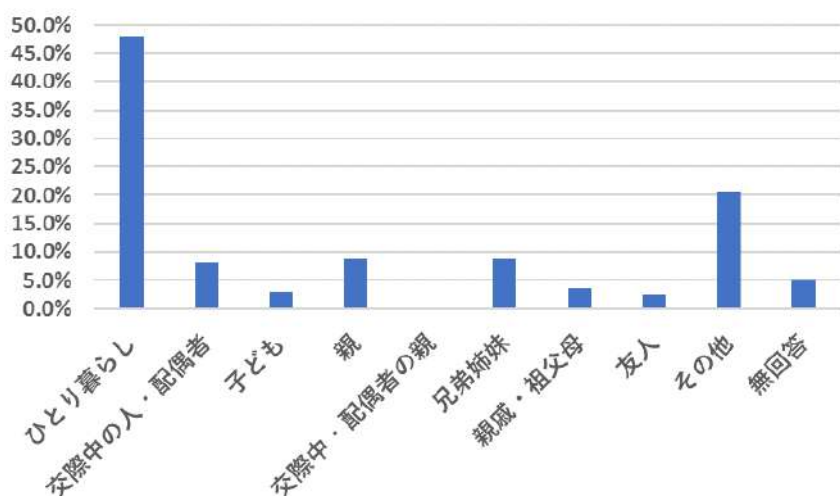
「民間賃貸住宅」(47.8%)の割合が最も高く、次に「会社や学校の寮」(8.7%)と「福祉施設・自立援助ホーム」(8.7%)の割合が同じ数値で高い結果でした。また、「親の家」(6.2%)と「親戚・祖父母・兄弟の家」(3.1%)を合計し、広義の家庭復帰とみられる割合は9.3%でした。「その他」には主に児童養護施設や里親、シェアハウスがあげられました*。

なお、ケアリーバー全国調査では、「民間賃貸住宅」(52.0%)、「親の家」(11.6%)、「会社や学校の寮」(11.6%)の順で割合の高い結果となっていました。ケアリーバー全国調査において「福祉施設・自立援助ホーム」は7.3%、「親戚・祖父母・きょうだいの家」は2.6% (広義の家庭復帰14.2%)という結果でした。

*「以前住んでいた里親の家や施設」という項目もありますが、以前と異なる施設や里親の意味なのか識別できず、「その他」の項目はデータクリーニングを行いませんでした。

③現在、だれと一緒に住んでいるか

現在、だれと一緒に住んでいるか（複数回答 n=161）		割合
ひとり暮らし	77	47.8%
交際中の人・配偶者（結婚相手）	13	8.1%
子ども	5	3.1%
親	14	8.7%
交際中・配偶者（結婚相手）の親	0	0.0%
兄弟姉妹	14	8.7%
親戚・祖父母	6	3.7%
友人	4	2.5%
その他	33	20.5%
無回答	8	5.0%

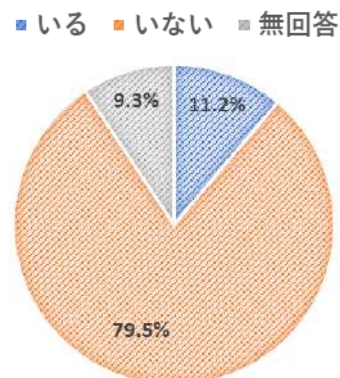


「ひとり暮らし」（47.8%）の割合が最も高く、次に「その他」（20.5%）、「親」、「兄弟姉妹」（8.7%）の割合が高い結果となりました。「その他」には、措置延長または再措置先が考えられる施設・里親関係者、グループホームの人、会社の同僚などがあげられました。

なお、ケアリーバー全国調査では、同居している相手について「ひとり暮らし」（51.7%）、「親」（21.3%）、「交際中の人・配偶者（結婚相手）」（17.2%）の順で割合の高い結果となっており「その他」は1.4%に留まりました。ケアリーバー全国調査は退所者を対象にしていることも踏まえ、このアンケートの回答者は措置延長や再措置となった人、また、グループホームの人などの割合が高いことが考えられます。

④家族の中にお世話をしている人がいるか

家族の中にお世話をしている人がいるか（n=161）		割合
いる	18	11.2%
いない	128	79.5%
無回答	15	9.3%
合計	161	100.0%



ヤングケアラー（本来大人が担うと想定されている家事や家族の世話などを日常的に行っている子ども）に関連して、厚生労働省・2020年度子ども・子育て支援推進調査研究事業『ヤングケアラーの実態に関する調査研究』（三菱UFJリサーチ&コンサルティング受託・以下、ヤングケアラー調査）と同様の質問もうかがい、家族の中にお世話をしている人が「いる」と回答した人は18人（11.2%）でした。対象が異なるため比較はできませんが、参考として中学生・高校生を対象としたヤングケアラー調査は「中学2年生」（5.7%）、「全日制高校2年生」（4.1%）、「定時制高校2年生相当」（8.5%）、「通信制高校生」（11.0%）という結果でした。

また、「いる」と回答した人には、世話を必要としている人がどなたなのかもうかがい、「兄弟姉妹」（44.4%）の割合が最も高く、次に高かったのは「親」（38.9%）、「その他」（33.3%）、「祖父母」（22.2%）の順でした。「その他」には子どもやおじさんなどがあげられました。なお、ヤングケアラー調査においても「きょうだい」がいずれの学校の種類においても最も高い割合の結果でした。

世話を必要としている人はだれか（複数回答 n=18）	割合	
親	7	38.9%
祖父母	4	22.2%
兄弟姉妹	8	44.4%
その他	6	33.3%

お世話をしている頻度（n=18）	割合	
ほぼ毎日	6	33.3%
週に3日～5日	3	16.7%
週に1日～2日	1	5.6%
1ヶ月に数日	4	22.2%
その他	3	16.7%
無回答	1	5.6%
合計	18	100.0%

お世話をしている頻度についてもうかがい、「ほぼ毎日」（33.3%）、「週に3日～5日」（16.7%）と週に3日以上お世話をしている人が半数の結果でした。「その他」には、2,3ヶ月に1回などがあげられました。なお、ヤングケアラー調査では「定時制高校2年生相当」（48.4%）の学校の種類を除き「ほぼ毎日」、「週に3日～5日」で同じく半数を超える結果でした。

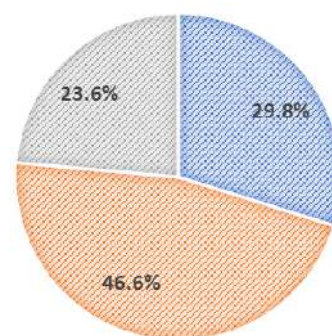
（6）支援の利用について

①施設・里親を退所したあと、あすのばの給付金と、国民全員に配布された給付金（10万円）

以外に利用した支援はあるか

■ 利用したことがある ■ 利用したことがない ■ 無回答

施設を退所したあと利用した支援（n=161）	割合	
利用したことがある	48	29.8%
利用したことがない	75	46.6%
無回答	38	23.6%
合計	161	100.0%



「ある」と回答した人は48人（29.8%）、「ない」と回答した人は75人（46.6%）でした。

「ある」と回答した人には、どのような支援を利用したかについてもうかがいました。また、その支援をどのように知ったかについてもうかがい、およそ3人に2人(66.7%)が「生活していた施設職員から教えてもらった」(56.3%)と「元里親から教えてもらった」(10.4%)と回答しました。「その他」では、学校の先生があげられました。

<利用した主な支援例>

- ・社協の貸付 ・在学中の学校独自の支援金制度を利用しました。
- ・日本学生支援機構からの支援 ・住宅確保給付金
- ・「夢の奨学金」 ・自立支援援助金
- ・京都新聞社「愛の奨学金」 ・生活支援や就職活動支援など
- ・稲森福祉財団だっと思ひます。 ・社会福祉協議会の家賃補助と資格取得費用
- ・大阪育英会 ・自動車免許代
- ・アトム進級基金 ・コロナ対策給付金
- ・赤い羽根共同募金 ・日本学生支援機構 給付型奨学金
- ・アパートの家賃二年分支援 ・県の奨学金
- ・障害年金の申請 ・児童扶養手当
- ・やまぶき財団 ・かわもとぶんきょう
- ・保育士就学支援金 ・作文を書き審査の上、給付金を頂いた
- ・市の他の奨学金制度です。

その支援をどのように知ったか (n=48)		割合
自分で調べて知った	4	8.3%
施設等で生活したことのある友人から教えてもらった	3	6.3%
施設・里親関係以外の友人から教えてもらった	0	0.0%
交際中の人・配偶者(結婚相手)から教えてもらった	0	0.0%
親から教えてもらった	0	0.0%
交際中の人・配偶者(結婚相手)の親から教えてもらった	0	0.0%
兄弟姉妹から教えてもらった	0	0.0%
親戚・祖父母から教えてもらった	0	0.0%
生活していた施設職員から教えてもらった	27	56.3%
元里親から教えてもらった	5	10.4%
児童相談所の人から教えてもらった	5	10.4%
職場の人から教えてもらった	0	0.0%
相談支援機関の人から教えてもらった	0	0.0%
その他	4	8.3%
無回答	0	0.0%
合計	48	100.0%

「ない」と回答した人には、その理由もうかがい、29人（38.7%）が「利用したかったが、利用できなかった」と回答しました。また、その利用できなかった理由についてもうかがい、「利用できる支援自体を知らなかった」（51.7%）が割合で最も高く、次に「利用の仕方が分からなかった」（34.5%）、「条件を満たしていなかった」（27.6%）が高い結果となりました。

支援を利用しなかった理由（n=75）		割合
利用したいと思ったことがない	27	36.0%
利用したかったが、利用できなかった	29	38.7%
無回答	19	25.3%
合計	75	100.0%

利用できなかった理由（複数回答 n=29）		割合
条件を満たしていなかった	8	27.6%
利用しようとしたが使いづらかった	3	10.3%
利用の仕方が分からなかった	10	34.5%
利用できる支援自体を知らなかった	15	51.7%
利用できる支援自体がなかった・見つからなかった	5	17.2%
その他	0	0.0%

そして、「ない」と回答した人には、どのような改善があれば、利用したい・利用しやすくなると思うかについてもうかがい、主な意見は以下の通りです。

- ・申請主義やヒアリングのハードルは高い。
- ・定期的な連絡
- ・支援が必要な人にこのように手紙、通知などの形で手紙を配送してくれると存在を知れるし、またゆっくり読むことが出来るので落ち着いて内容を知れる
- ・まずみんなあまり知らないと思うので、もっと認知されれば良いと思う
- ・施設に支援の話を伝えて、そこから各施設を出た児童に連絡する。
- ・学校や公共施設へパンフレットの配布
- ・審査などは全て取っ払う
- ・分かりやすく説明して欲しい。
- ・コロナの関係でアルバイトに入れていないのでそこに目をつけてくださるとありがたい
- ・メリットがわかる。
- ・各団体が行っている支援の内容・条件・給付内容等が記載されているホームページの作成。また、そのホームページを児童養護施設などへの周知。
- ・返済の事があると、とても不安になるため、苦しい時に頑張って乗り切ろうと思います。返済不要の給付金は、とてもありがたいし、利用しやすくなると思います。
- ・施設の時などから職員と一緒に練習や、実際の手続き等したら良いと思います。
- ・利用できる人間の条件の緩和
- ・使用方法の説明などでサポートしてくれる人がいてほしかった。

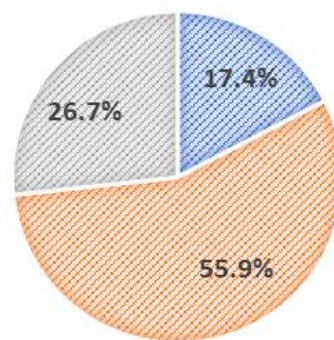
②支援の利用方法について

■ オンラインの方が利用しづらい

■ オンライン以外の方が利用しづらい

■ 無回答

支援の利用方法 (n=161)		割合
オンラインの方が利用しづらい	28	17.4%
オンライン以外の方が利用しづらい	90	55.9%
無回答	43	26.7%
合計	161	100.0%



このアンケートがオンライン回答の形式だったことに注意を払う必要がありますが、半数以上(55.9%)の人が「オンライン以外(用紙に記入して郵送や窓口で手続きなど)の方が利用しづらい」と回答しました。それぞれの理由について、主な意見は以下の通りです。

<オンラインの方が利用しづらい理由>

- ・ ネットは難しい ・ めんどくさい
- ・ すぐに忘れるから ・ 利用方法が分かりづらい
- ・ Wi-Fiのあるところで、iPod touchを使っているのにWi-Fiのあるところでしかネットが使えないため。
- ・ 郵送の方が思ってることを書きやすい。 ・ 機械はあまり得意ではない
- ・ ネット環境が不安定 ・ パソコン上だと他の情報が邪魔をするから
- ・ オンラインはまだ慣れない ・ 分かりにくい
- ・ 書面で記入した方がきちんと届いているという確証があるため
- ・ 相手にしっかり伝わっているから不安だからです。後、機械操作が苦手だからです。
- ・ 面と向かってお話しする方が接しやすいと思ったからです。

<オンライン以外の方が利用しづらい理由>

- ・ 郵便代がかかることが多いため。 ・ 不備があった場合に手遅れになるため
- ・ オンラインの方が見やすい上に分かりやすい。それに早く終わらせられる。
- ・ 書類の記入、ポストへの投函など時間がかかってしまうため
- ・ オンラインの方がわからないことなどその場で確認しやすいため
- ・ スマホ慣れをしているから ・ ペンで書いて間違えるのが怖いです。
- ・ お仕事しているので手続きする際に現地に向かうのが大変なため
- ・ 就活で多忙なので場所を選ばない方法だと助かります。
- ・ 直接会うと緊張するから ・ 書くことが苦手だから。
- ・ まだ車を持っていないためポストに行ったり、郵便局に行くのが大変なため
- ・ いちいち出しに行くのが面倒だったり、紙だとかちゃごちゃになる
- ・ 書類等が必要となる場合、平日は仕事のため発行しに行けない

③自由記述（どのような支援があると助かるか）

どのような経済面の支援・制度、また、どのような経済面以外の支援・制度があると助かるかについてもうかがいました。現在しんどいと感じている、困っている、解決してほしいことなど含めて自由にご記入いただきました。

- ・やはり、引っ越しする費用。
- ・就職した後に、県を跨いでの引っ越し費用や初期費用、家賃でとてもかかった。
- ・18歳の卒園した最初にお金がかかるのはもちろん当然なのですが、正直やはり施設で育ったというのもあって社会と自分の力なのなさを痛感して仕事を辞めてしまう子もいると思います。僕もその1人でした。少しのミスで全てがダメになるような。そして仕事辞めてしまうと新しく仕事を始めようにもなかなか一歩勇気が出せない子もいると思います。そんな子達の支援や制度があるとすごく助かります。やはり生きていくにはお金が必要でそのお金を稼ぐ為の仕事が出来ないとなるとだんだん苦しくなっていくので仕事に復帰出来るまでの少しの期間でも給付金などの支援があると嬉しいなと思います！
- ・学生の方は経済面の支援は必要かと思います。私は社会人なので経済面の支援があると助かりますが、なくても困りはしないです。施設等から離れてひとり暮らしをしている方が多いと思うのでたまに交流できる場があると楽しいです。
- ・家賃補助。放送局へ勤めるという夢を叶えに関東へ来たが、家賃の出費が大きかった。
- ・現在パートで働いています。会社の方から良くして頂いていますが、環境に馴染めなくて、心療内科で鬱病と診断され治療を続けています。勤務時間を短くして頂き、職業支援など利用し出勤しています。
- ・食費が結構かかってしまう
- ・施設の増加
- ・家賃、光熱費、水道代、ガス代
- ・新しい生活の準備費用でほとんど支援金がなくなるのでその後の生活費用も少しあると嬉しいかもしれません
- ・月に一回の支援や食材の支援、Wi-Fiなど必要なものの支援など
- ・一人暮らしが不安、寂しい
- ・学費が安くなって欲しい
- ・率直に言えば主にお金の面が不安です
- ・お米を送って欲しいと思います
- ・食料や日用品などがいただけると嬉しい
- ・進路をどうするか決まらない
- ・住宅補助金があると助かります。私の会社は住宅補助金が出ないため、手取りの中から家賃を支払っているのですが、生活費などもあるため自由に使える、また貯金するお金が少なく、しんどいと自分では実感しております。

- ・ 給付金みたいなコロナ禍における生活支援金や食べ物
- ・ 元里子で養子縁組している子も今大変そうなので、同様の援助が受けれたらいいと思う
- ・ 学費以外にも、電車の定期代等色々お金がかかるので、そこの支援もあつたらいいと思う
- ・ 一人暮らしはとても大変で特に料理と健康面が色々大変でした。一人暮らししたての時に調理が簡単なものやインスタントなどがあれば引っ越してすぐの時に助かると思います。
- ・ 浪人生や社会人になっても大学や専門学校に行きたいと思った時に行きやすい環境になってほしい(現役生と同じくらいの金銭的支援など)
- ・ 卒業後の引っ越しなどにかかる費用の支援
- ・ 退所した後も経済的に支援が欲しい
- ・ 経済的にしんどいなあとあります。給付型奨学金などがありますが、それでもギリギリです
- ・ 経済面では就職するための準備費用の援助。経済面以外では心理的な援助
- ・ 施設出身者の集まりは、初対面の人と関わるのが苦手なので参加しにくい。自分がいた施設の人たちと集まる機会があると嬉しい。施設の職員はいつも来てくれるが、食事などは自腹と思うし、大変そうに見える。
- ・ 高校のお金がでかすぎるからもっと生活費とかのお金を受けれるような支援が欲しい。支援制度が沢山あることを広めて欲しい。
- ・ 一人暮らしの支援
- ・ コロナ禍でだいぶ仕事が減少しているため金銭的な支援をいただければありがたいです。
- ・ 食材や服の提供などもとてもありがたいと思います。
- ・ 社会について教えて欲しい。施設で生活していると、分からないことが多い。
- ・ 就労先での相談事を気軽に話せる「相手」「場所」時には、カウンセラーの存在があるといい
- ・ 里親にもいろんな話は伝えるが、他にも関わりが持てると嬉しい。
- ・ 生活用品などの支援
- ・ 一人暮らしが寂しすぎて困っている。施設に居てたら個室だったけどリビングからは誰かしらの声が聞こえてたから寂しくなかった
- ・ 相談できる相手が多ければ多いほど良いかと思えます。支援者さんもしんどいですけどね、
- ・ 大分市にあるわかばハウスみたいなところがあると嬉しい。
- ・ 私の家系は片親で、退所後、妹が学生で私が社会人になりました。わたしは支援により一人暮らしを経て社会人になることができ、妹も同じく支援により進学することができました。わたしが一人暮らしをした理由は、親が生活保護をうけており、一緒に暮らすと保護を受けられないと聞いていたからです。支援を受けてから何年か経ち、自分でお金を稼いで生活するという事に慣れましたが、やはりお金に困ることは無くなることはありませんでした。例えば、車を買うお金がなかったので、歩いて通勤しようと考え、近くに引越したのですが仕事柄夜勤のこともあり、クルマが必要と言われ、まず、困りました。周りは両親が出してくれて少しずつ返すという人が多いのですが私にはそのような事が可能では無いので自分で

生活費も車代も娯楽費も両立して生活しなければならなかったです。また、成人式の振袖も同じでした。そのような事がある度に周りとの違いに悩み、妥協することもしばしばありました。また、妹がまだ学生なので、成人式などの費用は私が代わりに負担し妹はバイトで稼ぎ私に少しずつ返済しているような形です。また、妹は持病もあり、バイト代で入院や、治療代などを支払っています。保証はあるものの、将来の貯金のことも考えると不安だらけになるし、お金で悩むことに心も痛みます。中には保証の効かないもの、されるかもしれないのに知らないこともあると思います。なので経済力の無い片親の子供に生活す上で必要な費用(住宅手当や、車の費用、伝統行事の費用など)の支援がもう少しあって欲しいです。

- ・悩みでは無いけど、やりたい事が多すぎてそれが給料だけではまかなえないとか、個人的な理由ですみません。
- ・仕事のお給料がコロナで少し減ったり、ボーナスも凍結してるのでカツカツ。
- ・感染の拡大により、主人の給料が減った。また、主人が働く会社が閉店寸前で、困っている
- ・固定費がかかりすぎて、自分へ使えるお金が少ない
- ・コロナにより給料が激減して生活がしんどい
- ・コロナ感染対策でアルバイトに入れておらず一人暮らしをしている学生でアルバイトを出来ていない人に給付金を送っていただきたいと思っています。
- ・一人で生活しなくちゃいけないし困った時に頼れる人がいないから生活するのに不安
- ・シンプルにお金を貰える制度。
- ・自分は支援金を頂けたことに感謝しかありませんが、具体的にどういう経緯でこのような支援することになったのか?どういう会社なのか?御礼状を書かせて頂く時に少し困惑してしまうのでそういう所も教えて頂ければ、気持ちを込めて感謝の気持ち伝えることができます。
- ・高卒での就職はお給料が少なく、家賃などを賄えない。
- ・大学に通い続けることにもお金がかかるし、大学に通っている間に成人式があったり、卒業式があったりするお金がかかるなと思い、どれだけ働いてもすぐになくなってしまふことがしんどいなと思います。時間もバイトに使ってばかりでしんどいなと感じます。
- ・学校を卒業してから、いろいろな資格を取りたいなと感じても、なかなかその費用までためられない事がもどかしいです。
- ・経済的に苦しいと感じる。コロナ禍で収入が減った。
- ・もっとおかねほしい
- ・大学4年生の時からコロナウイルスが流行し始め、オンラインで就職面接が可能になりました。しかし、最終面接は交通費が必要であったり、アルバイトでは雇用が切られたりと就職活動をするにあたって収入がないのに大きな支出が立て続けにあるので生活が大変でした。
- ・就職してからも貯蓄がないまま引っ越したり経済的・精神的にも不安定になりそうでした。
- ・大学を卒業する前に何か経済的な支援があるととても助かります。
- ・交通費が高いから何とかして欲しい。

④自由記述（あすのばの給付金で改善してほしいこと、取り組んでほしいこと）

最後に、あすのばの給付金で改善してほしい、あすのばに取り組んでほしいことも自由にご記入いただきました。

- ・ 初期費用など使えるとありがたい。
- ・ 卒園した後の長期的な支援が欲しいなと思います！
- ・ どうしても施設で育ったのも多少はあるとは思いますがそういう子達はどうしても自分に自信を持つ事が出来ないのです。だから最初だけではなく社会に出たり進学したりした後のつまずいた時の支援をどうかよろしくお願いします！
- ・ 情報がなくて今初めてそういう給付金があったことを知りました
- ・ 知的障害児の親御さんも障害者だったりします、そんな家庭を助けて頂けたらと思います。
- ・ もう少し給付金額をあげてもらえるとより新生活に役立つかもしれないです
- ・ これからも児童養護施設退所者などの人のため、頑張っって欲しいと思っております。
- ・ 退所後の支援
- ・ 給付金のお金を上げて欲しい。
- ・ これからもこの支援をつづけて欲しいです。
- ・ 申請者の全員が対象だったらもっと嬉しい。
- ・ あすのばのことを深く知らないの具体的に改善して欲しいことや、取り組んで欲しいことが述べられないのが申し訳ないですが、だからこそどのような活動をしているか、仕組み、支援金のお知らせなどを通知や手紙で教えて欲しいです。
- ・ もっとみんなに知って欲しいです。わたしは凄く助かったので。ありがとうございました。
- ・ これからもずっと未来ある子供達の支えになってあげて欲しいです。
- ・ 給付金の増額
- ・ 大学4年生を対象に給付金制度があれば、これからの学生は助かるのではないかと思います

以上

「社会的養護経験者 185 人の生活と声アンケート」結果（保護者票分）

（1）回答者（保護者）と子どもについて

⑧ 給付金を受け取った子どもの世代

子どもの年齢世代（n=24）		割合
小学生（7歳～12歳）	7	29.2%
中学生（13歳～15歳）	8	33.3%
中学卒業以上（16歳～18歳）	9	37.5%
無回答	0	0.0%
合計	24	100.0%

給付金を受け取った子どもの年齢をうかがいし、小学生の世代は7人(29.2%)、中学生の世代は8人(33.3%)、中学卒業以上の世代は9人(37.5%)でした。回答者の子どもに19歳以上の人はいませんでした。

⑨ いつ頃、家庭復帰をしたか（施設・里親を退所した年）

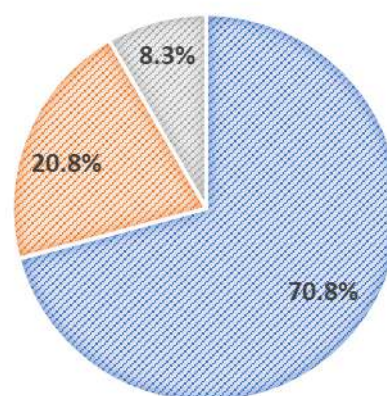
いつ頃、家庭に戻ったか（n=24）		割合
2016年	0	0.0%
2017年	1	4.2%
2018年	1	4.2%
2019年	4	16.7%
2020年	5	20.8%
2021年	12	50.0%
無回答	1	4.2%
合計	24	100.0%

給付金を受け取った子どもの家庭復帰をした時期をうかがい、半数(50.0%)は2021年に復帰をした家庭という結果でした。母数は限られていますが、家庭復帰から年数が経つに連れ回答数が少なくなる傾向が読み取れます。

⑩ 子どもとの関係性

子どもとの続き柄（n=24）		割合
母親	17	70.8%
父親	5	20.8%
親戚・祖父母	2	8.3%
兄弟・姉妹	0	0.0%
その他	0	0.0%
無回答	0	0.0%
合計	24	100.0%

■ 母親 ■ 父親 ■ 親戚・祖父母



保護者と子どもとの関係性について、続き柄は17人が「母親」(70.8%)、5人が「父親」(20.8%)、2人が「親戚・祖父母」(8.3%)の回答でした。回答者に「兄弟・姉妹」と回答したはいませんでした。

⑪ 保護者の年齢

保護者の年齢 (n=24)		割合
20代 (20歳～29歳)	1	4.2%
30代 (30歳～39歳)	6	25.0%
40代 (40歳～49歳)	9	37.5%
50代 (50歳～59歳)	6	25.0%
60代以上 (60歳以上)	1	4.2%
無回答	1	4.2%
合計	24	100.0%

保護者の年齢で最も多かったのは40代でした(9人・37.5%)。

最も低い年齢は27歳(現在、子どもが小学生の保護者)、最も高い年齢は70歳(現在、子どもが高校生の親戚・祖父母)でした。年齢の平均値・中央値はともに45歳という結果でした。

⑫ いつ頃、給付金のことを知ったか

いつ頃、給付金のことを知ったか (n=24)		割合
申し込む前から知っていた	4	16.7%
施設職員・里親・子ども本人が申し込んだあとに知った	7	29.2%
給付金をもらってから知った	4	16.7%
このアンケートが届いてから知った	8	33.3%
無回答	1	4.2%
合計	24	100.0%

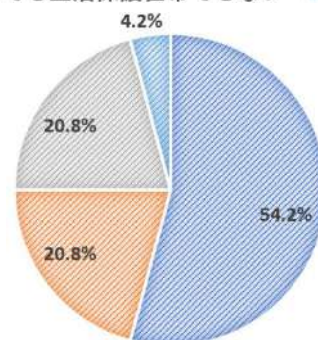
最も多い回答は「このアンケートが届いてから知った」(33.3%)で、次に多い回答は「施設職員・里親・子ども本人が申し込んだあとに知った」(29.2%)でした。半数の保護者は送金後(家庭復帰したあと)以降に給付金について知り、アンケートを送付した時にも、どういう団体や給付金なのかの問い合わせが少なくありませんでした。給付金の仮決定後、措置解除後のご住所を控える際に支援情報やアンケートをお送りする可能性があることを通知文でお知らせしていましたが、さらにつながりを継続する手立ての必要性が感じられる結果となりました。

(2) 復帰した家庭の状況について

① 現在の家庭状況

現在の家庭状況 (n=24)		割合
住民税(所得割)非課税世帯	13	54.2%
生活保護世帯	5	20.8%
非課税世帯でも生活保護世帯でもない	5	20.8%
分からない	0	0.0%
無回答	1	4.2%
合計	24	100.0%

■ 住民税(所得割)非課税世帯 ■ 生活保護世帯
■ 非課税世帯でも生活保護世帯でもない ■ 無回答



回答者のうち4世帯中3世帯(75.0%)は「住民税(所得割)非課税世帯」、「生活保護世帯」と回答しました。円満な形での家庭復帰だけではなく、家庭に戻ったあとも経済的に厳しい状態で生活を送る可能性があることを改めて感じられる結果となりました。

世帯構成についてもうかがい、3世帯中2世帯（66.7%）は「ひとり親家庭（母子家庭、父子家庭）」と回答しました。「その他」は、「祖父母、兄」、「離婚予定」があげられました。

また、世帯人数の平均値は3.8人で中央値は4人という結果でした。子どもの人数の平均値は2.2人で中央値は2人という結果でした。

現在の家庭状況（n=24）		割合
ひとり親家庭（母子家庭、父子家庭）	16	66.7%
両親のいる家庭	6	25.0%
その他	2	8.3%
無回答	0	0.0%
合計	24	100.0%

世帯人数（平均値）	3.8
世帯人数（中央値）	4
子どもの人数（平均値）	2.2
子どもの人数（中央値）	2

※世帯人数、子どもの人数は日頃の生活費を一緒にする人（仕送り含む）、寮など一時的に違う場所に居住する人、別居でも扶養関係の人など生計が同じ家族の人数

② 世帯の年収

回答していただいた仕事の年収やもらっている手当を基に、あすのば入学・新生活応援給付金の住民税非課税・生活保護世帯と同じ形式で世帯の年収金額を算出しました。算出結果は、無回答や不備のある回答を除く14世帯のものです。また、お仕事の年収金額は2020年の税込年収です。

まず、世帯の勤労年収平均値は2,387,454円で中央値は2,339,200円という結果でした。10世帯（71.4%）はお仕事で得られた年収が300万円未満でした。

世帯の勤労年収（n=14）		割合
0円	2	14.3%
100万円未満	2	14.3%
100万円～200万円未満	2	14.3%
200万円～300万円未満	4	28.6%
300万円以上	4	28.6%
合計	14	100.0%

世帯の勤労年収（平均値）	2,387,454
世帯の勤労年収（中央値）	2,339,200

続いて、生活保護費や児童手当、児童扶養手当、遺族・障害年金などの手当や養育費を含めた世帯年収を計算しました。その結果、世帯年収平均値は3,363,375円で中央値は3,099,200円という結果でした。6世帯（42.9%）は手当など含めた世帯年収が300万円未満でした。

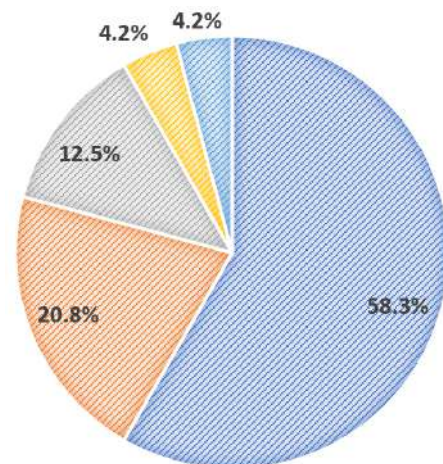
手当など含めた世帯の年収（n=14）		割合
100万円未満	1	7.1%
100万円～200万円未満	3	21.4%
200万円～300万円未満	2	14.3%
300万円以上	8	57.1%
合計	14	100.0%

手当など含めた世帯の年収（平均値）	3,363,375
手当など含めた世帯の年収（中央値）	3,099,200

なお、年度の申込者数により異なりますが、住民税非課税・生活保護世帯の選考基準では7世帯が採用の基準内で、住民税非課税・生活保護世帯と回答した世帯に限ると、77.8%が基準内でした。

③現在の住まいと家賃・ローン

現在、どのようなところに住んでいるか (n=24)		割合
民間賃貸住宅 (マンション・アパートなど)	14	58.3%
公的賃貸住宅 (公団・県営・市営住宅など)	5	20.8%
持ち家 (戸建て・マンション) など	3	12.5%
その他	1	4.2%
無回答	1	4.2%
合計	24	100.0%



- 民間賃貸住宅 (マンション・アパートなど)
- 公的賃貸住宅 (公団・県営・市営住宅など)
- 持ち家 (戸建て・マンション) など
- その他
- 無回答

現在、どのようなところに住んでいるかについてうかがい、「民間賃貸住宅 (マンション・アパートなど)」(58.3%)の割合が最も多く、次に「公的賃貸住宅 (公団・県営・市営住宅など)」(20.8%)の割合が多い結果でした。「その他」には「実家」があげられました。

また、毎月支払う家賃・ローンについてもうかがい、平均値は 63,261 円で中央値は 60,000 円という結果でした。

(3) 施設・里親とのつながり、利用した支援

①子どもが生活していた施設・里親とのつながり

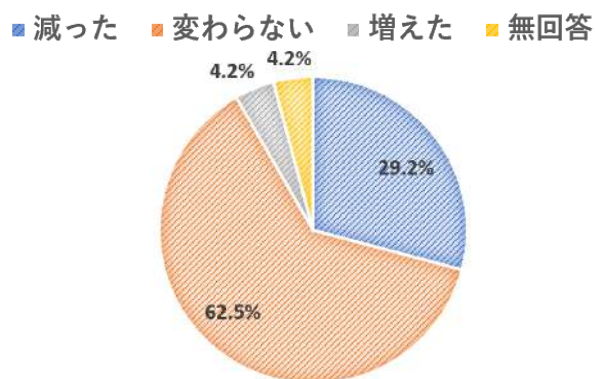
子どもが生活していた施設・里親の種類 (n=24)		割合
児童養護施設	17	70.8%
児童自立支援施設	4	16.7%
児童心理治療施設	2	8.3%
里親	1	4.2%
無回答	0	0.0%
合計	24	100.0%

児童養護施設が 17 人 (70.8%)、児童自立支援施設が 4 人 (16.7%)、児童心理治療施設が 2 人 (8.3%)、里親が 1 人 (4.2%) の結果でした。設問していたファミリーホーム、自立援助ホームは回答者にいませんでした。

この一年間の施設・里親との連絡頻度 (n=24)		割合
週に1回以上	2	8.3%
月に1回以上	5	20.8%
2~3ヶ月に1回以上	6	25.0%
半年に1回以上	2	8.3%
1年間に1回程度	5	20.8%
1年間に1回もない	4	16.7%
無回答	0	0.0%
合計	24	100.0%

また、施設・里親との連絡頻度もうかがい、「2~3ヶ月に1回以上」(25.0%)が最も多く、次に「1年間に1回程度」(20.8%)が多い結果でした。措置・委託解除後、間もないことも踏まえる必要がありますが、半数以上(54.2%)が数か月の中で定期的に連絡を取っていることが分かりました。

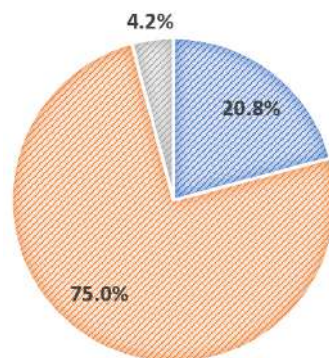
新型コロナの影響 (n=24)		割合
減った	7	29.2%
変わらない	15	62.5%
増えた	1	4.2%
無回答	1	4.2%
合計	24	100.0%



新型コロナウイルス感染拡大による連絡頻度の影響について、15人(62.5%)が「変わらない」と回答した一方で、7人(29.2%)が「減った」と回答しました。本人票でも同じ質問をして31.1%が「減った」と回答しており、新型コロナウイルス感染拡大によって連絡頻度が増えた人は本人・保護者ともにほとんどいないことを考察することができます。

②施設・里親を退所したあと、あすのばの給付金と、国民全員に配布された給付金(10万円)以外に利用した支援はあるか

家庭復帰してから利用した支援 (n=24)		割合
利用したことがある	5	20.8%
利用したことがない	18	75.0%
無回答	1	4.2%
合計	24	100.0%



■ 利用したことがある ■ 利用したことがない ■ 無回答

回答者のうち4世帯中3世帯(75.0%)は、支援を利用したことが「ない」と回答しました。「ある」と回答した人は5世帯(20.8%)で、どのような支援を利用したかについてもうかがい、「高等学校等就学支援金」、「高校生等奨学給付金」、「就学援助」など公的支援制度があげられました。

「ない」と回答した人には、その理由をうかがい、10世帯(55.6%)が「利用したかったが、利用できなかった」と回答しました。利用できなかった理由もうかがい、「利用できる支援を知らな

支援を利用しなかった理由 (n=18)		割合
利用したいと思ったことがない	2	11.1%
利用したかったが、利用できなかった	10	55.6%
無回答	6	33.3%
合計	18	100.0%

かった」(60.0%)が最も高く、次に「条件を満たしていなかった」(30.0%)、「利用の仕方が分からなかった」(同30.0%)が高い結果でした。「その他」には、「生活保護世帯だから」があげられました。

利用できなかった理由 (複数回答 n=10)		割合
条件を満たしていなかった	3	30.0%
利用しようとしたが使えなかった	0	0.0%
利用の仕方が分からなかった	3	30.0%
利用できる支援自体を知らなかった	6	60.0%
利用できる支援自体がなかった・見つからなかった	2	20.0%
その他	1	10.0%

そして、「ない」と回答した人には、どのような改善があれば、利用したい・利用しやすくなると思うかについてもうかがい、主な意見は以下の通りです。

- ・前もってわかっていると利用しやすいと思う。
- ・生活保護世帯でも収入に換算されなければ、とても助かると思います。
- ・困っている人を困っていない人というあつかいをされた。自殺や無理心中は無くならないと思う。
- ・どのような物があるのか知りたかった。
- ・色々教えてくれればだと思えます。今回のはまず給付金自体知らなかった。
- ・お給料は変わらなくてもコロナで子どもたちが自宅に長期間いたことで、食費などのエンゲル係数が増えてとても困りました。

支援の利用方法 (n=24)		割合
オンラインの方が利用しづらい	12	50.0%
オンライン以外の方が利用しづらい	6	25.0%
無回答	6	25.0%
合計	24	100.0%

なお、支援の利用方法についても質問し、半数にあたる 12 人 (50.0%) が「オンライン(パソコンやスマートフォンを使うなど)の方が利用しづらい」と回答しました。

それぞれの理由について、主な意見は以下の通りです。

<オンラインの方が利用しづらい理由>

- ・スマホやパソコンと言う機械が使いきれないから。
- ・マニュアルを見ても、わかりにくい事とまだ複雑であるため
- ・ネットが使えない
- ・内容的に難しいならと利用しづらい
- ・電磁波過敏症だから
- ・よくわからない
- ・あまりやり方がわからないから。慣れば大丈夫ですが。
- ・見えづらい

<オンライン以外の方が利用しづらい理由>

- ・場所や時間が限られるから。時間や手間もかかるため。
- ・用紙に記入するのもわかりやすい見本が必要だと思う。
- ・期間が長い。ポストへ行く手間がある。
- ・手続きのために、改めて時間を作らなければならない。
- ・手続きに行く暇がない

③自由記述（どのような支援があると助かるか）

どのような経済面の支援・制度、また、どのような経済面以外の支援・制度があると助かるかについてもうかがいました。現在しんどいと感じている、困っている、解決してほしいことなど含めて自由にご記入いただきました。

- ・高校生2人居ますが、高校での徴収金2人分は少し厳しいです。また、区のほうから利用できる制度が、8月末まで全く知らずに自治体独自の手当もあるのも知らず、約半年分もらえず制度自体きちんと教えて頂けない、役所仕事だと痛感しました。こちら側しか手続きを知らなければいけない現状に憤りを感じました。生活保護なので高校の授業料は免除ですが、徴収金は自己負担なので厳しいです。
- ・給付金もらってるけど色々と学校のために使うと足りないから値段を高くしてほしい。
- ・生活保護や手当をいただいているので、それだけでもとても助かっていますが、やはり成長期の子供3人をひとり親で養うのはともしんどいです。児童相談所や他団体にもお世話になっていますが、母子家庭で、思春期の息子は同性の相談相手や遊べる相手を求めているようです。来年、息子は高校受験ですが、現在不登校なのと、私の収入や保護費で入学させてあげられるかとても不安です。児童養護施設では大変お世話になりましたが、今でもトラウマになっており、児童相談所でトラウマケアを受けています。私も幼少期の虐待が原因で子どもたちにしてきた、間違っしたしつけを反省しながら、自分のトラウマを治療中です。自分に対してなかなか自信を持たず、戸惑う日々です。子どものためにあったらいいなと思う支援は、学校では受けられない体験をさせてあげたいです。
- ・生活もある中で、食費が大きく毎月の出費が大きい。さらに、高校の修学旅行等の出費も大きく子供には不自由をかけざる事がある。また、職に就くときも自動車免許が必要で取りに行かせられないので職が見つかりにくい。ローンではなく、何か良い方法が知りたいです。
- ・うちの子2人は、ADHD、ASDの個性があるので、知育教材や学習教材など本人に合ったものを見つけるまでに色々試したいのですが、お金に余裕がないためなかなか用意することができません。病院などへの通院の際の出費なども大変なので、生活費全般とした支援などありましたら、とても助かります。発達障害児の支援、制度など、今後進んでいったらいいなと思います。近年耳にする方も増えてきたことと思いますが、やはりなかなか理解されず、入学早々に普通級に在籍させないでほしい等、心苦しいことがありました。どうか、お子さん一人一人が安全に健全に成長できますようにご支援のほど、よろしく申し上げます。
- ・例えば、電気料金やガス料金や水道料金など生活に必要な部分を割引制度などあれば経済的に助かると思う。色々な支援や制度をもっと使えるよう条件を下げしてほしい。新型コロナの影響で仕事にも影響があり色々な事にストレスを感じています。1人でも困っている人に手をさしのべていただけたら良いと思います。
- ・DVの避難できるシェルター
- ・子どもが多い家庭は中学以降ますますお金がかかり進学の面でもだいぶ我慢させてしまい、

その分親が働こうと思いますが、体力にも時間にも限界があり、大変です。

- ・経済面で家庭の事情もあり辛い時もあります。子供に障害があるのか？理解しづらく、お金を稼ぐことより、要求がすごいので困る時が多々ある。
- ・特にぜいたく品の物を買う事はせず食品に関しても割引き、半額等の品物を努力して購入していますが、子ども3人（中学～高校）小学生の時より明らかに食べる量は増え、また、日配品（トイレットペーパー、衛生用品、シャンプー、リンスなど）は特に使用量が多く目に見える形でなくなります。生活費（必要な物）は、20才までの子どもがいる世帯に学ぶ事が安心して出来るような支援制度があれば、親子が安心出来る毎日を過ごせると思います。

④自由記述（あすのばの給付金で改善してほしいこと、取り組んでほしいこと）

最後に、あすのばの給付金で改善してほしい、あすのばに取り組んでほしいことも自由にご記入いただきました。

- ・学校に行く維持費が多いため、給付金と払うお金が釣り合っていない！給付金の金額があがってほしい。
- ・在宅で仕事しているので、一応は収入がありますが、やはり、ひとり親で息子は不登校ですと家におり、次女は小学一年生でまだ手がかかるため、できれば給付金あと100万円は必要だと思います。分割でもいいので、毎月入ったらとても助かります。
- ・年払いの追加の学費が未だ支払えていない。生活もギリギリで。余裕もなく居住先の役所へ相談するも支援が未定。
- ・あすのばにはとても感謝しています。ありがとうございました。
- ・ないです。
- ・里親さんとのご縁があり子供とも離れていた日々の事を思い出しました。息子の通帳に給付金などとともに今年里親さんから離れ、帰ってきました。兄の影響もあり「バイクに乗りたい」と常々話しは聞いていました。あすのばさんの給付金で原付免許、バイク購入することができました。バイトも始まり学校とバイトの両立ができればと思います。
- ・今のままでもいいと思います。

以上

アンケートの回答まで至らなかった人たちを含め、あすのばと給付金をきっかけにつながってくださり、そして貴重な声や想いを教えてくださり、本当にありがとうございました。新型コロナウイルス感染拡大の影響などで予定していたヒアリングまで実施できておらず、さらに具体的に実態を捉えて対策や支援へつなげていくことは今後の課題とします。また、アンケートの実施へ向けて検討・準備のためご協力いただいた皆さまにも改めて心からの御礼を申し上げます。

2022年3月

公益財団法人あすのば